

科目基本情報	科目名 エコロジーの思想	期別	曜日・時限	単位
	担当者 村井 忠康	前期	木 5	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 今日では「地球にやさしい」といったフレーズがふつうに使われ、環境に配慮したゴミの分別回収なども、かなり厳しくおこなわれるようになってきている。このように私たちは、環境問題の考慮抜きにしては成り立たない社会で暮らしている。この授業では、こうした私たちのあり方を、エコロジーの思想あるいは環境哲学の主題として捉えてきたさまざまな立場を概観する。	メッセージ 自然環境と社会環境はどう違うのか、現代ではもう区別できないのでは、といった疑問をもつ人、エコロジーばかり気にしては社会が豊かにならないと思う人もいるかもしれない。そういう人こそ、いっしょに「環境」や「豊かな社会」の意味について考えてみてほしい。
	到達目標 ①環境問題という具体的な問題が哲学・思想の主題になりうるのはなぜかを理解できるようになる。 ②環境思想・哲学が私たち人間の生き方についての学問であることを理解できるようになる。 ③環境問題について、具体例に即しつつも抽象的・概念的レベルで考えることができるようになる。	

学びの準備	到達目標 ①環境問題という具体的な問題が哲学・思想の主題になりうるのはなぜかを理解できるようになる。 ②環境思想・哲学が私たち人間の生き方についての学問であることを理解できるようになる。 ③環境問題について、具体例に即しつつも抽象的・概念的レベルで考えることができるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス：この授業の概要とスケジュールについて
	2	自然保護めぐる対立：保存か保全か
	3	環境哲学と環境倫理学
	4	リアクションペーパー応答
	5	ディープ・エコロジー
	6	ソーシャル・エコロジー
	7	エコフェミニズム
	8	リアクションペーパー応答
	9	レポートの書き方
	10	和辻の風土論
	11	ベルクの風土論
	12	リアクションペーパー応答
	13	環境美学（1）
	14	環境美学（2）
	15	リアクションペーパー応答
16	予備日	
	時間外学習の内容	
	シラバス・配布資料の確認	
	配布資料の熟読	
	配布資料の熟読・レポート準備	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストはとくに指定しないが、毎回プリントを配布する。参考文献は、入手しやすさや読みやすさ、価格などを考慮しつつ適宜紹介する。ここでは、以下の二つを挙げておく。 尾崎周二・亀山純生・武田一博編『環境思想キーワード』、青木書店、2005年 上柿崇英・尾関周二編『環境哲学と人間学の架橋』、世織書房、2015年
-------	---

学びの実践	学びの手立て ・授業時には、意識的に疑問点を見つけて書き留めること。さらに踏み込んで、どうして自分がそうした疑問をもつのか、その理由についても考えてみる。 ・授業の復習では、扱った内容を振り返るだけでなく、自分なりに文章化して再現することが重要。これができるようになるにつれて、授業の理解度も上がってゆく。
-------	---

学びの実践	評価 リアクションペーパーの提出状況（40%） 学期末レポート（60%） ・毎回授業の最後に10～15分ほどリアクションペーパー記入の時間を設ける。コメントや疑問を積極的に記入することが求められる。 ・レポートでは具体的な問いを課すが、授業で紹介した哲学的立場への賛否をその理由とともに述べるのが求められる。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「環境の倫理学」、「哲学I」および「同II」、「倫理学I」および「同II」など。
-------	---

科目基本情報	科目名 環境の倫理学	期別 後期	曜日・時限 木2	単位 2
	担当者 村井 忠康	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 環境の哲学は、応用倫理学の一分野としての環境倫理学から始まり、今やそれを含むほどの広い学問領域となりつつある。しかし、環境倫理学自体もまた、従来の環境問題だけでなく、動物の権利の問題や、宇宙開発に伴う倫理的問題など、その射程は以前の枠組みに収まりきらなくなっている。現代の環境倫理学のもつこの射程の広さを理解することが、この授業のねらいである。	メッセージ 授業中の発言やリアクションペーパーを通じて、自分の考えを言葉にしてみしてほしい。最初は漠然とした考えや表現であっても、教師や出席者との対話を重ねることで次第に明確になっていくものである。また、これは環境倫理学の問題なのではと思われるテーマがあれば、積極的に伝えてほしい。授業の中で一緒に考えてみたい。
	到達目標 ①環境倫理学のさまざまな問題について、ポイントを押さえた理解ができるようになる。 ②環境倫理学は具体例に事欠かないが、自分でも問題ごとに適切な例を挙げることができるようになる。 ③概念的・原理的なレベルにまで掘り下げて、環境倫理学の問題について考えることができるようになる。 ④根拠を挙げながら自分の理解や見解を論述できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：この授業の概要とスケジュール	シラバス・配布資料の確認
	2	環境倫理学の始まり：レオポルドの土地倫理	配布資料の熟読
3	人間非中心主義：テイラーの生物中心主義	配布資料の熟読	
4	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読	
5	動物倫理（1）シンガーとレーガンの種差別批判	配布資料の熟読	
6	動物倫理（2）種差別批判に対するダイヤモンドの批判	配布資料の熟読	
7	シンガーのパーソン論	配布資料の熟読	
8	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読	
9	レポートの書き方	配布資料の熟読	
10	人間中心主義（1）自然の法的権利	配布資料の熟読	
11	人間中心主義（2）ノートンの弱い人間中心主義	配布資料の熟読	
12	環境プラグマティズム	配布資料の熟読	
13	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読	
14	宇宙倫理学としての環境倫理学	配布資料の熟読	
15	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読・レポート準備	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など テキストはとくに指定しないが、毎回プリントを配布する。参考文献は、入手しやすさや読みやすさ、価格などを考慮しつつ適宜紹介する。ここでは、以下のものを挙げておく。 高橋広次『環境倫理学入門』、勁草書房、2011年。		
	学びの手立て ・授業時には、意識的に疑問点を見つけて書き留めること。さらに踏み込んで、どうして自分がそうした疑問をもつのか、その理由についても考えてみる。 ・授業の復習では、扱った内容を振り返るだけでなく、自分なりに文章化して再現することが重要。これができるようになるにつれて、授業の理解度も上がってゆく。 ・紹介する参考文献のうち、少なくとも一冊は考えながら読み切ってほしい。疑問のたびに立ち戻ることができる哲学書ができるなら、レポートの作成で壁にぶち当たったとき必ず役立つ。		
	評価 リアクションペーパーの提出状況（40%） 学期末レポート（60%） ・毎回授業の最後に10～15分ほどリアクションペーパー記入の時間を設ける。授業内容についてのコメントや疑問を積極的に記入することが求められる。 ・レポートでは具体的な問いを課すが、授業で紹介した哲学的立場への賛否をその理由とともに述べることが求められる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「エコロジーの思想」、「倫理学Ⅰ」および「同Ⅱ」など。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャンパスライフの心理学	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	1年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学の知識や技法、青年期に陥りやすい様々なリスクについて学ぶことで、大学生活への適応を目指します。	メッセージ 青年期は、子どもから大人への移行期であり、心や人とのかかわり方が大きく変化する時期だと言われています。また自分自身と向き合い、どのように生きていくかを主体的に決めていく時期でもあります。悩むことも行き詰ることも増えるかと思いますが、充実したキャンパスライフとなるよう、本講義を通して身に付けた心理学的な知識や視点を生かして欲しいと考えています。
	到達目標 ①大学生活への適応ができる ②青年期の特徴と悩みについて理解できる ③悩みやトラブルに対して対応策を考えることができる ④心理学の学びをキャンパスライフに生かす視点を養う	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	次回授業の予習
	2	青年期の特徴：発達段階	次回授業の予習
	3	アイデンティティ	次回授業の予習
	4	自己分析	次回授業の予習
	5	キャリア形成と結婚	次回授業の予習
	6	青年期の人間関係：恋愛関係	次回授業の予習
	7	青年期の人間関係：友人関係	次回授業の予習
	8	ソーシャルサポート	次回授業の予習
9	自殺予防	次回授業の予習	
10	詐欺と心理学	次回授業の予習	
11	宗教・カルト・セクト	次回授業の予習	
12	創造性	次回授業の予習	
13	ストレスとコーピング：認知行動療法	次回授業の予習	
14	ストレスとコーピング：マインドフルネス	次回授業の予習	
15	まとめ	全講義の復習	
16	予備日	全講義の復習	
	テキスト・参考文献・資料など ・教科書は特に指定せず、毎回配布する資料を中心に講義を進めます。 ・毎回のリアクションペーパーはmoodleを用いて提出してもらいます。		
	学びの手立て ・授業の感想・質問等はmoodleを用いて提出してもらいます。いただいた質問は、次回の授業で可能な限りフィードバックします。 ・COVID-19対策等の都合で全学的に追加履修登録が認められない状況である場合、追加履修に関する問い合わせをいただいても対応しかねます。		
	評価 ・成績は、授業への参加態度（50%）と最終レポート（50%）で評価します。授業への参加態度は、毎回の授業のリアクションペーパーの内容と提出率も評価の対象となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・心理学 I や心理学 II を履修すると、本講義で扱った内容のより詳しい基礎的な知識を学ぶことができます。 ・本講義で学んだ内容を、キャンパスライフや卒業後の人生に役立ててください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャンパスライフの心理学	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	1年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学の知識や技法、青年期に陥りやすい様々なリスクについて学ぶことで、大学生活への適応を目指します。	メッセージ 青年期は、子どもから大人への移行期であり、心や人とのかわり方が大きく変化する時期だと言われています。また自分自身と向き合い、どのように生きていくかを主体的に決めていく時期でもあります。悩むことも行き詰ることも増えるかと思いますが、充実したキャンパスライフとなるよう、本講義を通して身に付けた心理学的な知識や視点を生かして欲しいと考えています。
	到達目標 ①大学生活への適応ができる ②青年期の特徴と悩みについて理解できる ③悩みやトラブルに対して対応策を考えることができる ④心理学の学びをキャンパスライフに生かす視点を養う	

学びの実践	学びのヒント 授業計画			
		回	テーマ	
		1	オリエンテーション	次回授業の予習
		2	青年期の特徴：発達段階	次回授業の予習
		3	アイデンティティ	次回授業の予習
		4	自己分析	次回授業の予習
		5	キャリア形成と結婚	次回授業の予習
		6	青年期の人間関係：恋愛関係	次回授業の予習
		7	青年期の人間関係：友人関係	次回授業の予習
		8	ソーシャルサポート	次回授業の予習
		9	自殺予防	次回授業の予習
		10	詐欺と心理学	次回授業の予習
		11	宗教・カルト・セクト	次回授業の予習
		12	創造性	次回授業の予習
		13	ストレスとコーピング：認知行動療法	次回授業の予習
		14	ストレスとコーピング：マインドフルネス	次回授業の予習
		15	まとめと期末レポートの作成	全講義の復習
		16	予備日	全講義の復習
	テキスト・参考文献・資料など			
	<ul style="list-style-type: none"> 教科書は特に指定せず、毎回配布する資料を中心に講義を進めます。 毎回のリアクションペーパーはmoodleを用いて提出してもらいます。 			
	学びの手立て			
	<ul style="list-style-type: none"> 授業の感想・質問等はmoodleを用いて提出してもらいます。いただいた質問は、次回の授業で可能な限りフィードバックします。 COVID-19対策等の都合で全学的に追加履修登録が認められない状況である場合、追加履修に関する問い合わせをいただいても対応しかねます。 			
	評価			
	<ul style="list-style-type: none"> 成績は、授業への参加態度（50%）と最終レポート（50%）で評価します。授業への参加態度は、毎回の授業のリアクションペーパーの内容も評価の対象となります。 			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> 心理学 I や心理学 II を履修すると、本講義で扱った内容のより詳しい基礎的な知識を学ぶことができます。 本講義で学んだ内容を、キャンパスライフや卒業後の人生に役立ててください。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	芸術学 I	前期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>美術や芸術がどのように始まり、我々人間社会にどのような影響を与えて来たのかを西洋美術史（作品名、作家名、時代・様式、主義・主張など）を紐解きながら学ぶことができる。また、芸術関係者による特別講義を通して美術館運営や学芸員の役割などを学ぶ。</p>	<p>世界文化遺産のピラミッドから始まり、人類が芸術にどう関わり、どう発展してきたか。また世界で名画と呼ばれる作品の謎や完成度などを紐解いて行く。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋美術における流れとその特徴を説明することが出来る。 2. ルネサンスにおける人間社会への参画について説明することが出来る。 3. 特別講義などを通して、美術館や学芸員の役割について説明することが出来る。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバス確認（授業内容の確認と事前テスト、美術・芸術に関するテスト）	シラバスの確認（ゼミ内容確認）
	2	エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品（ピラミッドの謎、魅力など）	ピラミッドについて事前学習
	3	エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品（ピラミッドの謎、魅力など）	エジプトの神々について事前学習
	4	エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品（ピラミッドの謎、魅力など）	ギリシャ彫刻について事前学習
	5	エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品（ピラミッドの謎、魅力など）	ギリシャ神話について事前学習
	6	中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）	ミケランジェロについて事前学習
	7	中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）	ダヴィンチについて事前学習
	8	中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）	ラファエロについて事前学習
	9	中間試験（確認テスト）	振り返り
	10	特別講義（芸術関係者による講義）	特別講師について事前学習
	11	仏教美術（宗教について）	宗教について事前学習
	12	仏教美術（宗教について）	宗教について事前学習
	13	北欧美術（15世紀－16世紀ルネサンス）	北欧・ボスについて事前学習
14	北欧美術（15世紀－16世紀ルネサンス）	ブリューゲルについて事前学習	
15	前期のまとめ（振り返り）	振り返り（最終試験に向けて）	
16	最終試験	教養として生活で活かす	
テキスト・参考文献・資料など	レジメ、資料を配布する 1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む） 2. 美術検定		
学びの手立て	日頃から芸術や美術に関心を持ち、表現の素晴らしさに気づいて欲しい。		
評価	中間テスト50%、最終試験50%で評価する。 事前テストは評価に含まない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学芸員に必要な基礎知識（とくに美術）を習得する。美術検定などにもトライして欲しい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	芸術学II	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	芸術学IIでは、芸術学Iで習得した知識を踏まえ、西洋や日本、沖縄の芸術文化をさらに思弁的に学び、社会における芸術（美術、浮世絵、写真、現代アート）視覚メディアを幅広く学ぶことができる。	ルネサンス以降の西洋美術の発展と社会に与えたインパクトを学び、西洋でも人気が高かった日本美術の傑作浮世絵なども紹介する。

到達目標
1. 近代史において西洋美術や日本美術の特徴や相互関係を説明することが出来る。 2. 美術史を踏まえ、幅広く芸術メディア（浮世絵、演劇、写真など）の特徴を説明することが出来る。 3. 芸術関係者の特別講義を通して、博物館や美術館の役割を説明することが出来る。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの確認（授業内容確認など）事前テスト	シラバスの確認（ゼミ内容確認）
	2	西洋美術の動向と潮流（写実主義）	クールペについて事前学習
	3	西洋美術の動向と潮流（写実主義）	ミレーについて事前学習
	4	西洋美術の動向と潮流（写実主義）	カミュについて事前学習
	5	西洋美術の動向と潮流（ロマン主義）	ゴヤについて事前学習
	6	西洋美術の動向と潮流（印象主義）	モネ、ルノワールについて事前学習
	7	西洋美術の動向と潮流（印象主義）	モネについて事前学習
	8	中間テスト	振り返り
	9	特別講義（映画関係者）	特別講師について事前学習
	10	浮世絵（歌麿、写楽）	浮世絵について事前学習
	11	浮世絵（北斎、広重）	浮世絵とフランスとの関係
	12	西洋美術の動向と潮流（印象主義）	セザンヌについて事前学習
	13	西洋美術の動向と潮流（印象主義）	ゴッホについて事前学習
	14	現代芸術（芸術メディア（写真、現代アートなど）の動向と潮流）	ピカソについて事前学習
15	授業のまとめ（振り返り）	振り返り（最終試験に向けて）	
16	最終試験	教養として生活で活かす	

テキスト・参考文献・資料など
レジメ、資料を配布する 1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）、2. 美術検定

学びの手立て
芸術学I同様、日頃から芸術や美術に関心をもち、表現の素晴らしさに気づいて欲しい。

評価
中間テスト50%、最終試験50%で評価する。 事前テストは評価に含まない。

学びの継続
次のステージ・関連科目 学芸員に必要な基礎知識（とくに美術）を習得する。美術検定などにもトライして欲しい。

※ポリシーとの関連性 日本語によるコミュニケーションのありかたを検討し、誰にでも開かれた地域社会の構築を目指す。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コミュニケーション論	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小高 政彦	1年	講義室又はメールにて受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年コミュニケーション力が能力の一つとして捉えられる傾向があるが、その「コミュ力」の正体とはいったい何だろうか。「情報社会」の視点と、情報の運搬役と見られている「メディア」の働きや関係性から読み解いてゆく。	コミュニケーションは人間関係の基本です。お互いに友好的かつスマートに関係性を築いていきたいと思っています。良好なコミュニケーションへのクリティカルパスを共に探していきましょう。

到達目標
①コミュニケーション学の基礎を理解する ②コミュニケーションにおける言語、非言語の意義を理解する ③日常におけるコミュニケーションのポイントを理解する ④メディアによるコミュニケーションの特徴を理解する ⑤インターネットを介したコミュニケーションのポイントを理解する ⑥メタバース上でのコミュニケーションの特徴を理解する

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	次回講義の予習
	2	コミュニケーションとは	次回講義の予習
	3	言語コミュニケーション	次回講義の予習
	4	非言語コミュニケーション	次回講義の予習
	5	通信放送メディア	次回講義の予習
	6	ネットワークとコミュニケーション	次回講義の予習
	7	コミュニケーションを支える情報技術	次回講義の予習
	8	中間試験	1回～7回の講義の復習
	9	仮想現実の私	次回講義の予習
	10	メタバース①	次回講義の予習
	11	メタバース②	次回講義の予習
	12	新しいコミュニケーションの時代	次回講義の予習
	13	監視社会	次回講義の予習
	14	高齢化とアイデンティティ	次回講義の予習
15	まとめ	全講義の復習	
16	最終試験	全講義の復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しません。毎回講義初めに必要資料を配布します。
-------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に対面授業で行う予定です。出席も毎回とります。 ・積極的に講義に参加して下さい。
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・中間試験50%、期末試験50%。 ・出席も加味します。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>コミュニケーションは一人でやることはできません。学校生活を通じて得た、「良き友人良き仲間」を思い浮かべながら講義にのぞんでください。幅広い知識を習得し、豊かな人格形成を目指すことが多様なコミュニケーションへの近道です。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 日本語によるコミュニケーションのありかたを検討し、誰にでも開かれた地域社会の構築を目指す。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コミュニケーション論	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-田添 暢彦	1年	教室またはメールにて受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では「やさしい日本語」についてみなさんと考えてみたいと思います。「やさしい日本語」とは、日本語のネイティブスピーカーではない人にも理解しやすい日本語という意味です。災害時の警報から保育所の入園手続きまで、さまざまな場面で外国人居住者がぶつかる日本語のハードルを下げて、どんな人にとっても居場所となるような地域社会づくりについて考えてみましょう。	半年間の短い間ですが、お互いにとって意味のある時間にしたいと思っています。やさしいテキストを使ってゆっくり進めますので、参加した人全員が収穫を得られる授業だと思います。
到達目標	どんな相手かにかかわらず、物事を分かりやすく伝えるというコミュニケーションの技能を高めることが一番の目標です。その過程で、「分かりやすく伝える」ために何をすべきか、例えば、相手によって何を配慮すべきかがわかるようになります。また、実際に「やさしい日本語」の文章をつくるために、日本語文法の構造を理解したうえで意識的に書き換えを行えるようになります。分かりやすいコミュニケーションの技能を身に着けると、今後、学業や仕事の中でのあらゆる場面で役立ちます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 講師の自己紹介、授業の進め方、評価法、課題提出のルール、本の紹介	講義内容の把握
	2	移民と日本	テキスト 1-22ページ
	3	「やさしい日本語」の誕生1	テキスト 23-64ページ
	4	「やさしい日本語」の誕生2	テキスト 23-64ページ
	5	「やさしい日本語」のかたち1	テキスト 65-92ページ
	6	「やさしい日本語」のかたち2	テキスト 65-92ページ
	7	中間試験	テキスト 1-92ページ
	8	外国にルーツを持つ子どもたちと「やさしい日本語」1	テキスト 93-128ページ
	9	外国にルーツを持つ子どもたちと「やさしい日本語」2	テキスト 93-128ページ
	10	障害を持つ人と「やさしい日本語」1	テキスト 129-168ページ
	11	障害を持つ人と「やさしい日本語」2	テキスト 129-168ページ
	12	日本語母語話者と「やさしい日本語」1	テキスト 169-192ページ
	13	日本語母語話者と「やさしい日本語」2	テキスト 169-192ページ
14	多文化共生社会に必要なこと	テキスト 193-222ページ	
15	全体のまとめ	テキスト 1-225ページ	
16	期末試験	テキスト 1-225ページ	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト：『やさしい日本語—多文化共生社会へ』庵功雄 岩波新書（新赤版1617）840円+税 できるだけ皆さんの負担にならないように、テキストは安くして手に入りやすいものを選びました。 さらに意欲的な方には参考図書として以下の2冊をおすすめします。どちらも沖国の図書館にあります。 庵功雄、イ・ヨンスク、森篤嗣 編（2013）『「やさしい日本語は何を目指すか」多文化共生社会を実現するために』2400円+税 ココ出版 庵功雄、岩田一成、佐藤琢三、舩田直美 編（2019）『〈やさしい日本語〉と多文化共生』2400円+税 ココ出版		
	学びの手立て		
	①「履修の心構え」 テキストの内容を分かりやすく解説した資料を毎回配布します。これに沿ってテキストに線を引きながら読み、最後の課題で自分の理解を確認できるようにします。 メールまたは教室での質問、話題提供などは歓迎しますよ。 ②「学びを深めるために」 街で日本語や外国語での案内表示を見るたびにもっと分かりやすい表現はないか考えてみてください。写真を撮って、授業で議論するのもありだと思います。		
	評価		
	中間テスト50%、期末テスト50% 中間、期末テストでは授業で学んだ知識の確認を行います。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 言語文化接触論、比較文化論、アジア太平洋文化論、外国語科目群など。 (2) 次のステージ 日本語の文法、外国語との比較、日本語教授法を学ぶことでさらに学びが深まります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	1年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、日常にあふれる身近な現象を、人間がどのように知覚、認識しており、心理学ではどのような理論で説明されているのかを講義します。本講義を通して、心理学という学問の特徴と限界について正確に把握した上で、日常の現象を心理学的な視点で説明できるようになることを目指します。</p>	<p>本科目の履修を希望する場合は、初回授業に必ず出席してください。心理学がどのような学問領域であるのか、日常生活とどのように関連付けることができるのかを一緒に学んでいきましょう。</p>
到達目標	<p>①心理学という学問が、どのような特徴と限界を持った学問かを適正に理解できる。 ②人間の知覚、学習、記憶、認知、感情、動機づけに関する基礎的な知識を理解することができる。 ③日常生活における身近な現象を心理学の視点から説明できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	次回の授業の予習
	2	心理学とは：心理学の歴史	次回の授業の予習
	3	知覚心理学1：視覚	次回の授業の予習
	4	知覚心理学2：聴覚、嗅覚、触覚、味覚のしくみ	次回の授業の予習
	5	学習心理学1：条件付け	次回の授業の予習
	6	学習心理学2：学習の促進と抑制	次回の授業の予習
	7	記憶心理学1：記憶の過程	次回の授業の予習
8	記憶心理学2：記憶の種類と忘却	次回の授業の予習	
9	認知心理学1：言語	次回の授業の予習	
10	認知心理学2：思考	次回の授業の予習	
11	感情心理学：情動	次回の授業の予習	
12	動機づけと心理学：動機づけ	次回の授業の予習	
13	脳と心理学1：神経細胞	次回の授業の予習	
14	脳と心理学2：脳の構造	次回の授業の予習	
15	全講義のまとめ	全講義の復習	
16	期末試験	全講義の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など	教科書は指定せず、毎回配布する資料を元に授業を行います。	
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 他の受講生の迷惑になる行為（私語、遅刻、途中退出等）は控えてください。 授業の感想・質問等はmoodleを用いて提出してもらいます。いただいた質問は、次回の授業で可能な限りフィードバックします。 COVID-19対策等の都合で全学的に追加履修登録が認められない状況である場合、追加履修に関する問い合わせをいただいても対応しかねます。 	
	評価	<ul style="list-style-type: none"> 成績は、授業への参加態度（50%）と学期末試験（50%）で評価します。授業への参加態度は、授業内で行う課題への取り組み具合やリアクションペーパーの内容も評価の対象となります。 	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理学Ⅱを履修すると、心理学Ⅰで学んだ内容との関連が見えてくるため、より深く人間の心理・行動を理解できるようになります。 心理カウンセリング専攻が開設している専門科目を履修することで、心理学Ⅰで学んだ事に関する、より詳しい内容や最新知見を学ぶことができます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	1年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、日常にあふれる身近な現象を、人間がどのように知覚、認識しており、心理学ではどのような理論で説明されているのかを講義します。本講義を通して、心理学という学問の特徴と限界について正確に把握した上で、日常の現象を心理学的な視点で説明できるようになることを目指します。</p>	<p>本科目の履修を希望する場合は、初回授業に必ず出席してください。心理学がどのような学問領域であるのか、日常生活とどのように関連付けることができるのかを一緒に学んでいきましょう。</p>
到達目標	<p>①心理学という学問が、どのような特徴と限界を持った学問かを適正に理解できる。 ②人間の知覚、学習、記憶、認知、感情、動機づけに関する基礎的な知識を理解することができる。 ③日常生活における身近な現象を心理学の視点から説明できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	次回の授業の予習
	2	心理学とは：心理学の歴史	次回の授業の予習
	3	知覚心理学1：視覚	次回の授業の予習
	4	知覚心理学2：聴覚、嗅覚、触覚、味覚のしくみ	次回の授業の予習
	5	学習心理学1：条件付け	次回の授業の予習
	6	学習心理学2：学習の促進と抑制	次回の授業の予習
	7	記憶心理学1：記憶の過程	次回の授業の予習
8	記憶心理学2：記憶の種類と忘却	次回の授業の予習	
9	認知心理学1：言語	次回の授業の予習	
10	認知心理学2：思考	次回の授業の予習	
11	感情心理学：情動	次回の授業の予習	
12	動機づけと心理学：動機づけ	次回の授業の予習	
13	脳と心理学1：神経細胞	次回の授業の予習	
14	脳と心理学2：脳の構造	次回の授業の予習	
15	全講義のまとめ	全講義の復習	
16	期末試験	全講義の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など	教科書は指定せず、毎回配布する資料を元に授業を行います。	
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 他の受講生の迷惑になる行為（私語、遅刻、途中退出等）は控えてください。 授業の感想・質問等はmoodleを用いて提出してもらいます。いただいた質問は、次回の授業で可能な限りフィードバックします。 COVID-19対策等の都合で全学的に追加履修登録が認められない状況である場合、追加履修に関する問い合わせをいただいても対応しかねます。 	
	評価	<ul style="list-style-type: none"> 成績は、授業への参加態度（50%）と学期末試験（50%）で評価します。授業への参加態度は、授業内で行う課題への取り組み具合やリアクションペーパーの内容も評価の対象となります。 	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理学Ⅱを履修すると、心理学Ⅰで学んだ内容との関連が見えてくるため、より深く人間の心理・行動を理解できるようになります。 心理カウンセリング専攻が開設している専門科目を履修することで、心理学Ⅰで学んだ事に関する、より詳しい内容や最新知見を学ぶことができます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	1年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、日常にあふれる身近な現象が、心理学の分野ではどのように研究され、どのような理論で説明されてきたのかを講義します。本講義を通して、心理学という学問の特徴と限界について正確に把握した上で、日常の現象を心理学的な視点で説明できるようになることを目指します。</p>	<p>本科目の履修を希望する場合は、初回授業に必ず出席してください。心理学がどのような学問領域であるのか、日常生活とどのように関連付けることができるのかを一緒に学んでいきましょう。</p>
到達目標	<p>①心理学という学問が、どのような特徴と限界を持った学問かを適正に理解できるようになる。 ②人間の性格、発達、社会、臨床に関する基礎的な知識を理解することができる。 ③日常生活における身近な現象を心理学の視点から説明できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	次回授業の予習
	2	心理学の研究手法とは？	次回授業の予習
	3	人格心理学1：性格とは？	次回授業の予習
	4	人格心理学2：性格の形成	次回授業の予習
	5	発達心理学1：乳幼児期の発達	次回授業の予習
	6	発達心理学2：児童・青年期の発達	次回授業の予習
	7	発達心理学3：成人期・老年期の発達	次回授業の予習
8	社会心理学1：個人	次回授業の予習	
9	社会心理学2：対人	次回授業の予習	
10	社会心理学3：集団	次回授業の予習	
11	社会心理学4：現代的問題	次回授業の予習	
12	臨床心理学1：臨床心理アセスメント	次回授業の予習	
13	臨床心理学2：心理療法	次回授業の予習	
14	臨床心理学3：教育・医療・産業・司法における心理支援	次回授業の予習	
15	全講義のまとめ	全講義の復習	
16	期末試験	全講義の復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>・教科書は特に指定せず、毎回配布する資料を中心に講義を進めます。</p>		
学びの手立て	<p>・他の受講生の迷惑になる行為（私語、遅刻、途中退出等）は控えてください。 ・授業の感想・質問等はmoodleを用いて提出してもらいます。いただいた質問は、次回の授業で可能な限りフィードバックします。 ・COVID-19対策等の都合で全学的に追加履修登録が認められない状況である場合、追加履修に関する問い合わせをいただいても対応しかねます。 ・心理学Ⅰを受講していなくても、心理学Ⅱを受講することは可能です。</p>		
評価	<p>・成績は、授業への参加態度（50%）と学期末試験（50%）で評価します。授業への参加態度は、授業内で行う課題への取り組み具合やリアクションペーパーの内容も評価の対象となります。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>・心理学Ⅰを履修すると、心理学Ⅱで学んだ内容の背景に、どのような心理学的・脳科学的メカニズムがあるかを学べるため、より深く人間の心理・行動を理解できるようになります。 ・心理カウンセリング専攻が開設している専門科目を履修することで、心理学Ⅱで学んだ事に関する、より詳しい内容や最新知見を学ぶことができます。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	1年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、日常にあふれる身近な現象が、心理学の分野ではどのように研究され、どのような理論で説明されてきたのかを講義します。本講義を通して、心理学という学問の特徴と限界について正確に把握した上で、日常の現象を心理学的な視点で説明できるようになることを目指します。</p>	<p>本科目の履修を希望する場合は、初回授業に必ず出席してください。心理学がどのような学問領域であるのか、日常生活とどのように関連付けることができるのかを一緒に学んでいきましょう。</p>
到達目標	<p>①心理学という学問が、どのような特徴と限界を持った学問かを適正に理解できるようになる。 ②人間の性格、発達、社会、臨床に関する基礎的な知識を理解することができる。 ③日常生活における身近な現象を心理学の視点から説明できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	次回授業の予習
	2	心理学の研究手法とは？	次回授業の予習
	3	人格心理学1：性格とは？	次回授業の予習
	4	人格心理学2：性格の形成	次回授業の予習
	5	発達心理学1：乳幼児期の発達	次回授業の予習
	6	発達心理学2：児童・青年期の発達	次回授業の予習
	7	発達心理学3：成人期・老年期の発達	次回授業の予習
8	社会心理学1：個人	次回授業の予習	
9	社会心理学2：対人	次回授業の予習	
10	社会心理学3：集団	次回授業の予習	
11	社会心理学4：現代的問題	次回授業の予習	
12	臨床心理学1：臨床心理アセスメント	次回授業の予習	
13	臨床心理学2：心理療法	次回授業の予習	
14	臨床心理学3：教育・医療・産業・司法における心理支援	次回授業の予習	
15	全講義のまとめ	全講義の復習	
16	期末試験	全講義の復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>・教科書は特に指定せず、毎回配布する資料を中心に講義を進めます。</p>		
学びの手立て	<p>・他の受講生の迷惑になる行為（私語、遅刻、途中退出等）は控えてください。 ・授業の感想・質問等はmoodleを用いて提出してもらいます。いただいた質問は、次回の授業で可能な限りフィードバックします。 ・COVID-19対策等の都合で全学的に追加履修登録が認められない状況である場合、追加履修に関する問い合わせをいただいても対応しかねます。 ・心理学Ⅰを受講していなくても、心理学Ⅱを受講することは可能です。</p>		
評価	<p>・成績は、授業への参加態度（50%）と学期末試験（50%）で評価します。授業への参加態度は、授業内で行う課題への取り組み具合やリアクションペーパーの内容も評価の対象となります。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>・心理学Ⅰを履修すると、心理学Ⅱで学んだ内容の背景に、どのような心理学的・脳科学的メカニズムがあるかを学べるため、より深く人間の心理・行動を理解できるようになります。 ・心理カウンセリング専攻が開設している専門科目を履修することで、心理学Ⅱで学んだ事に関する、より詳しい内容や最新知見を学ぶことができます。</p>

科目基本情報	科目名 女性と文化	期別 後期	曜日・時限 火1	単位 2
	担当者 -栗国 恭子	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			基本は対面形式。授業内容の質問などは授業了後に受け付ける	

学びの準備	ねらい 社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究の展開を確認していく。ジェンダーに関わる文化要素の事例確認することで、社会における〈男〉と〈女〉のあり様は、生物学的な差異に基づきながら社会や時代によって異なり、かつ多様であることを学ぶ。沖縄社会のジェンダーのテーマに触れる。	メッセージ この講義をきっかけに、男らしさや女らしさや性の役割は時代や文化によって異なることを理解する視点（ヒント）を得て、自分自身が捕えている持つ〈男〉とは？〈女〉とは？を再考してください。
	到達目標 社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究（沖縄を含む）の展開を確認していく（1-3週目）。〈産む性〉についても社会システムである「婚姻」や〈母性〉概念〈子供〉概念、〈女〉であることで社会・文化に管理される身体論の事例などを確認しながら女ながら多様さを確認する。ジェンダー研究の基本を確認にした後に沖縄社会・文化の〈女〉のあり様（特徴）を知り、多角的な理解が必要であることを確認する（11~15週）。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ジェンダーとは何か 文化的性差の概念を理解する	〈性差〉について調べる
	2	女性研究の流れ① 女性と文化・ジェンダー研究史の議論の流れを確認する	ジェンダー研究文献①②を確認
	3	女性研究の流れ② 沖縄の女性と文化研究のあり様を確認する	沖縄の女性研究文献③を確認する
	4	婚姻と文化① 世界の民族社会における婚姻制度の多様性を確認する	世界の婚姻制度について調べる
	5	婚姻と文化② 変化した現状の性・婚姻・出産のあり様と課題を確認する	性・生殖革命について調べる
	6	生む性 〈母性〉・〈子供〉の発見、多様な概念	ルソーの著作や参考文献⑤⑥
	7	文化に管理される身体① 〈ケガレ〉・〈聖〉観と身体観	〈不浄〉〈ケガレ〉の意味を調べる
	8	文化に管理される身体② 〈ケガレ〉・〈聖〉観と身体観 ネパールの埋まり進貢	ネパールの信仰について調べる
	9	文化に管理される身体③ 〈ケガレ〉無き女性・沖縄の民俗信仰と女性たち	沖縄の民俗信仰の特徴を調べる
	10	文化に管理される身体④ インドのダウリーやアフリカのFGM、身体加工	身体と人権の問題を考える
	11	沖縄の女性と文化① 現代の婚姻と伝統文化（離婚・家督相続・ユタ）問題	『沖縄県史 女性史編』を読む
	12	沖縄の女性と近代 異なる文化接触と評価 風俗改良（風土・身体・戦争）	『沖縄県史 女性史編』を読む
	13	文化と女性表象？ 沖縄女性への「まなざし」民藝一行が撮り、撮らなかった〈沖縄の女性〉	戦前の沖縄のポスター雑誌を確認
	14	文化と女性表象？ 映像と女性文化ー沖縄の女性イメージと作品論（映画・写真集）	沖縄の映画作品などを調べる
	15	沖縄の女性技術文化 戦後沖縄の女性の技術文化ーミシンをめぐる文化史ー	女性と技術と文化を確認する
16	テスト	「課題（テスト）の準備」	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布する。状況によって遠隔授業実施の際はポータル授業連絡でレジュメ（PDFファイル）を添付するため学生は各自でダウンロードすること。 〈参考文献〉①アードナーほか『男が文化で女は自然か？一性差の文化人類学』（晶文社、1987年）②マーガレット・ミード『男性と女性』（東京創元社、1981年）③伊波普猷・真境名安興『沖縄女性史』④田中雅一ほか編『ジェンダーで学ぶ文化人類学』（世界思想社、2005年）⑤バタンテール『母性という神話』（ちくま文庫）⑥フリップ・アリエス『子供の誕生』（みすず書房）⑦『沖縄県史女性史編』（2016）ほか講義でも重要な参考文献など紹介
-------	--

学びの実践	学びの手立て 「履修の心得え」として、以下を注意してください。 ・基本は対面講義で実施する。出席は毎回とります。なお、状況によつての遠隔講義の際にも、出欠確認はポータルでの授業連絡の学生による返信コメントで毎回行う。学生はやむを得ず遅刻・欠席する場合は、連絡を入れること。 ・授業での疑問・質問を積極的にしてもらいたい。
-------	---

学びの実践	評価 「評価方法・割合」期末試験（ポータルシステム利用）60%、講義感想質問レポート40% 「評価基準」期末試験においては、ジェンダー関係の情報理解だけではなく、文化を通して捉える女性のテーマを、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身のジェンダー観が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。よつて授業内容要約・暗記と共に「女性と文化」理解認識について評価する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ?関連科目 多様な人間の社会や文化を扱う「文化人類学」や女性の生活文化と関りが深い「民俗学」や沖縄文化関係などの科目をとることで、文化を通じた女性への理解が深まる。 (2) 次のステージ ジェンダーについて人文・社会科学科目だけではなく文学や芸術・美術などの領域の実践・展開など幅広く学んでほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名 女性と文化	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -栗国 恭子	前期	火 1	2
		対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 授業内容の質問などは授業終了後にポータル返信メッセージ（かE-mail）で受け取る	

学びの準備	ねらい 社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究の展開を確認していく。ジェンダーに関わる文化要素の事例確認することで、社会における〈男〉と〈女〉のあり様は、生物学的な差異に基づきながら社会や時代によって異なり、かつ多様であることを学ぶ。沖縄社会のジェンダーのテーマに触れる。	メッセージ この講義をきっかけに、男らしさや女らしさや性の役割は時代や文化によって異なることを理解する視点（ヒント）を得て、自分自身が捕えている持つ〈男〉とは？〈女〉とは？を再考してください。
	到達目標 社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究（沖縄を含む）の展開を確認していく（1-3週目）。〈産む性〉についても社会システムである「婚姻」や〈母性〉概念〈子供〉概念、〈女〉であることで社会・文化に管理される身体論の事例などを確認しながら女ながら多様さを確認する。ジェンダー研究の基本を確認にした後に沖縄社会・文化の〈女〉のあり様（特徴）を知り、多角的な理解が必要であることを確認する（11~15週）。	

学びの準備	到達目標 社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究（沖縄を含む）の展開を確認していく（1-3週目）。〈産む性〉についても社会システムである「婚姻」や〈母性〉概念〈子供〉概念、〈女〉であることで社会・文化に管理される身体論の事例などを確認しながら女ながら多様さを確認する。ジェンダー研究の基本を確認にした後に沖縄社会・文化の〈女〉のあり様（特徴）を知り、多角的な理解が必要であることを確認する（11~15週）。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ジェンダーとは何か 文化的性差の概念・「LGBT」を理解する
	2	女性研究の流れ① 女性と文化・ジェンダー研究史の議論の流れを確認する
	3	女性研究の流れ② 沖縄の女性と文化研究のあり様を確認する
	4	婚姻と文化① 世界の民族社会における婚姻制度の多様性を確認する
	5	婚姻と文化② 変化した現状の性・婚姻・出産のあり様と課題を確認する
	6	生む性 〈母性〉・〈子供〉の発見、多様な概念
	7	文化に管理される身体① 〈ケガレ〉・〈聖〉観と身体観
	8	文化に管理される身体② 両義性の身体 ネパールのクマリ信仰を事例に
	9	文化に管理される身体③ 〈ケガレ〉無き女性・沖縄の民俗信仰と女性たち
	10	文化に管理される身体④ インドのダウリーやアフリカのFGM、身体加工
	11	沖縄の女性と文化① 現代の婚姻と伝統文化（離婚・家督相続・ユタ）問題
	12	沖縄の女性と近代 異なる文化接触と評価 風俗改良（風土・身体・戦争）
	13	女性と文化表象？ 沖縄の女性への「まなざし」民藝一行が取り撮らなかつた〈沖縄の女性〉
	14	文化と女性表象？ 文学・映像と女性文化—沖縄の女性イメージと作品論（映画・写真集）
	15	文化と女性の技術 戦後の女性と技術—ミシンをめぐる沖縄文化史—
16	テスト	
	時間外学習の内容	
	〈性差〉について調べる	
	ジェンダー研究文献①②を確認	
	沖縄の女性研究文献③を確認する	
	世界の婚姻制度について調べる	
	性・生殖革命について調べる	
	ルソーの著作や参考文献⑤⑥	
	〈不浄〉〈ケガレ〉の意味を調べる	
	ネパールの信仰について調べる	
	沖縄の民俗信仰の特徴を調べる	
	身体と人権の問題を考える	
	『沖縄県史 女性史編』を読む	
	『沖縄県史 女性史編』を読む	
	柳宗悦、坂本万七の仕事をかくにん	
	沖縄の映画作品などを調べる	
	女性の技術を確認	
	「課題（テスト）の準備」	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布する。状況によって遠隔授業実施の際はポータル授業連絡でレジュメ（PDFファイル）を添付するため学生は各自でダウンロードすること。①アードナーほか『男が文化で女は自然か？—性差の文化人類学』（晶文社、1987年）②マーガレット・ミード『男性と女性』（東京創元社、1981年）③伊波普猷・真境名安典『沖縄女性史』④田中雅一ほか編『ジェンダーで学ぶ文化人類学』（世界思想社、2005年）⑤バタンテール『母性という神話』（ちくま文庫）⑥フリップ・アリエス『子供の誕生』（みすず書房）⑦『沖縄県史女性史編』（2016）ほか講義でも重要な参考文献（など）紹介
-------	--

学びの実践	学びの手立て 「履修の心得え」として、以下を注意してください。 ・出欠確認を毎回とります。 ・授業での疑問・質問を積極的にしてもらいたい。
-------	--

学びの実践	評価 「評価方法・割合」期末試験（ポータルシステム利用）60%、講義参加の感想レポート40% 「評価基準」期末試験においては、ジェンダー関係の情報理解だけではなく、文化を通して捉える女性のテーマを、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身のジェンダー観が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。よって授業内容要約・暗記と共に「女性と文化」理解認識について評価する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 「女性と歴史」や「フェミニズム思想」や務多様な人間の社会や文化を扱う「文化人類学」や女性の生活文化と関りが深い「民俗学」や沖縄文化関係などの科目をとることで、文化を通じた女性への理解が深まる。（2）次のステージ ジェンダーについて人文・社会科学科目だけではなく文学や芸術・美術などの領域の実践・展開など幅広く学んでほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

多様な沖縄・東アジアの「女性と歴史」を学ぶことで、現在・未来の社会における人権、男女共生へ必要な豊かな認識を提供する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 女性と歴史	期別 後期	曜日・時限 水2	単位 2
	担当者 -栗国 恭子	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			基本対面授業実施。授業の質問などは授業終了後にポータル絡返信メッセージで受ける	

学びの準備	ねらい 従来の「歴史」（義務教育も含め）を捉える際、男性中心的な傾向が強かった。しかし各時代各社会で多様な女性達が生きて「歴史」を刻んできた。社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の視点から琉球・沖縄の女性達の歴史を中心に、東アジア・日本の歴史と比較しながら琉球国時代、近代から現在の女性達の歩みを確認して、「歴史認識」を考える。	メッセージ この講義をきっかけに、従来の男性中心傾向の強い「歴史認識」について何故こうした構造が生まれたのか深く考えてみよう。また日本史でも触れる事の少ない沖縄の女性達の歴史を学ぶ機会は少ない。各時代で社会の半数を占めている多様な女性たちの歩んだ時間・「歴史」を学び・理解する視点（ヒント）を得ることで、自分自身の「歴史認識」を再考し豊かな視点を獲得してください。
	到達目標 従来の男性中心的な「歴史認識」のあり様とジェンダー概念を確認し、「女性と歴史」を捉える視点の変化を理解できる（①～②、④）。琉球国時代の女性達のあり様（③）、時代政策と女性の役割を宗教、性、産業から捉える（④～⑥）ことで多様な歴史テーマを知ることができる。近代の女性・戦時下の女性・占領下の女性の歴史（⑨～⑬）を学ぶことで、義務教育で学んだ歴史に加えより一層各時代の歴史を深くとらえる事が出来る。女性の人権・男女平等・フェミニズム運動の実践のあり様を知る（⑭）これまでの「女性と歴史」の取りこぼされた「マイノリティ」の存在とテーマを知り、今後の課題を確認し（⑮）、現代・未来へどのような人権、男女共生への取り組みを踏まえた豊かな「歴史認識」を知ることができる。全体で沖縄の祖先、母、女たちの歩みを知ることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	「女性と歴史」の視座：従来の「歴史認識」傾向と「ジェンダー」概念を確認する	文献①～③を確認しておく
	2	「女性史」と歴史・記述の変化。20世紀から21世紀にどのような「歴史認識」変化	文献①～③を確認しておく
	3	国（18世紀以前）と女性の「性」：社会階層、婚姻制度、産む「性」	琉球国の歴史を確認しておく
	4	ジェンダー・ポリティクス①国策（琉球王府、近代）の宗教政策における「公認と排除」	琉球国の宗教政策を調べておく
	5	ジェンダー・ポリティクス②殖産政策と島々の女性が産み出したもの	殖産政策について調べておく
	6	ジェンダー・ポリティクス③国策と〈性〉（辻遊郭、「慰安婦」、「モトシンカカランヌ」	文献④⑤を確認しておく
	7	女性の近代①国家の変化は女性たちに何をもたらしたのか（近世から近代）	近代国家・日本の歴史の基礎を確認
	8	女性の近代②「家族」・「家」・「位牌祭祀（トートーメー）継承	文献④～⑦を確認しておく
	9	戦争と女性① 戦時下で画一される女たち、女たちの戦争とは	文献④～⑦を確認しておく
	10	戦争と女性② 日常・暮らしの中の女たち	文献④～⑦を確認しておく
	11	占領下の女性① 終戦直後の社会・生き残った女たちの歩み（異種混交的時間）	文献④～⑦を確認しておく
	12	占領下の女性②民主化と女性の活動（政治、教育、商い、子育てなど）	文献④～⑦を確認しておく
	13	占領下の女性③ 労働で生み出したモノ（パイナップル、ミシン、工場、基地）	文献④～⑦を確認しておく
	14	現代の女性達①フェミニズム思想・運動・人権・政治参加	フェミニズム思想・運動を確認
	15	歴史の中のサブアルタン（subaltern）：「女性と歴史」に取り上げられない課題	サブアルタン研究を調べておく
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布。状況によって遠隔授業実施の際は、ポータル授業連絡にレジュメ添付する。 ＜参考文献＞①「歴史をひらく：女性史・ジェンダー史からみる東アジア世界」（御茶の水書房）②新編日本のフェミニズム－女性史・ジェンダー史」岩波書店、③「ジェンダーから見た日本史」大月書店 ④伊波普猷・真境名安興『沖縄女性史』⑤『沖縄県史女性史編』（2016）⑥『なは女性史前近代～現代』全3巻、⑦堀場きよ子『沖縄女性史－イナグヤナナバチー』、ほか講義でも重要な参考文献などは紹介する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 「履修の心得え」として、以下を注意してください。 ・出欠確認を毎回行う。ポータル授業連絡での返信コメントを利用して出席授業参加を確認する。学生は、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、連絡すること。 ・授業での疑問・質問を積極的にしてもらいたい。*「学びを深めるために」講義内容のより深い理解のために、「女性史」「ジェンダー関係」「フェミニズム」思想などのテーマで文献や情報収集など積極的にしてほしい。
-------	--

学びの実践	評価 「評価方法・割合」期末試験（ポータル返信システム利用）60%、平常の講義感想質問レポート40% 「評価基準」期末試験においては、講義内容と関連したテーマで「女性と歴史」を通して捉える東アジアや日本・沖縄の女性と時代のテーマを、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身の「歴史認識」が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「関連科目」多様な社会や文化や歴史とく女性を扱う「女性と文化」、「フェミニズム思想」、「文化人類学」、女性の生活文化と関りが深い「民俗学」や沖縄文化関係などの科目をとることで、「女性と歴史」の認識・理解が深まる。（2）次のステージ 沖縄や日本・東アジアの女性達が生きた時代の歴史経験を、歴史だけでなく人文・社会科学分野の文化研究や文学や芸術・美術などの領域の実践・展開など幅広く学んでほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	世界の歴史Ⅰ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	1年	研究室(5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は近代ヨーロッパ政治外交史の講義です。しかし、近代のヨーロッパは他地域との関係を通じて発展したので、非ヨーロッパ地域との関係をふまえながら説明します。その際、香辛料、毛織物等の「モノの移動」が与えた影響を基軸として、講義を進めます。また、歴史学は暗記物ではなく「考える学問」なのでワークシートの作成を通じた「歴史的なものの考え方」の修得も目標とします。</p>	<p>高校までの暗記による歴史学習とは異なる、当事者として歴史を考える学びを身につけてもらえるような講義を実施します。例年、登録だけして講義に出席しない人が多くいますので、そうしたことは避けてください。</p>
到達目標	<p>(1) 近代ヨーロッパ政治外交史に関する基本的な知識を習得し、特定の歴史事象について論理的に説明できる。 (2) 過去の出来事を、当事者の立場に立って考え、自分の言葉で表現できる。 (3) 歴史に関する資料・史料を分析・読解し、その結果を表現できる。 (4) 時間外学習に主体的に取り組み、「考える歴史学」を学ぼうとする姿勢を有することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	04/11 ガイダンス：講義に関するルールは何か？	シラバスの読解、ワークシート提出
	2	04/18 「大航海時代」の背景①：中世の西ヨーロッパ世界の特徴は何か？	配布資料の精読、ワークシート提出
	3	04/25 「大航海時代」の背景②：十字軍は西ヨーロッパ世界にどんな影響を与えたか？	配布資料の精読、ワークシート提出
	4	05/02 「大航海時代」の背景③：「商業の復活」は西ヨーロッパ世界をどのように変化させたか？	配布資料の精読、ワークシート提出
	5	05/09 「大航海時代」の到来①：イベリア諸国はなぜ、どのように「インド」を目指したか？	配布資料の精読、ワークシート提出
	6	05/16 「大航海時代」の到来②：「大航海時代」の到来は、世界にどんな変化をもたらしたか？	配布資料の精読、ワークシート提出
	7	05/23 スペインとオランダ①：16世紀のスペインとオランダは、どのような関係だったのか？	配布資料の精読、ワークシート提出
	8	05/30 スペインとオランダ②：「オランダ独立戦争」はどんな戦争だったか？	配布資料の精読、ワークシート提出
	9	06/06 スペインとオランダ③：「オランダ独立戦争」はどのように終わったか？	配布資料の精読、ワークシート提出
	10	06/13 オランダの繁栄①：独立戦争を通じて、オランダはどんな国家となったか？	配布資料の精読、ワークシート提出
	11	06/20 オランダの繁栄②：オランダの繁栄は、どんな対立を生み出したか？	配布資料の精読、ワークシート提出
	12	06/27 イングランドの革命①：17世紀半ばのイングランドは、どんな国家だったのか？	配布資料の精読、ワークシート提出
	13	07/04 イングランドの革命②：名誉革命で、英蘭関係はどのように変化したのか？	配布資料の精読、ワークシート提出
14	07/11 茶をめぐるヨーロッパの変化①：茶文化は、ヨーロッパでどのように広がったのか？	配布資料の精読、ワークシート提出	
15	07/25 茶をめぐるヨーロッパの変化②：茶文化の流入で、イングランドはどのように変化したか？	配布資料の精読、ワークシート提出	
16	レポート形式による学期末試験	レポート試験の準備、取り組み	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは使用しない。 主な参考資料は下記の通り。 ①佐藤彰一・池上俊一『西ヨーロッパ世界の形成』（中央公論社、1997年）②榎山紘一『ルネサンスと地中海』（中央公論社、1996年）③森田安一『スイス・ベネルクス史』（山川出版社、1998年）④立石博高『スペイン・ポルトガル史』（山川出版社、2000年）⑤長谷川輝夫他『ヨーロッパ近世の開花』（中央公論社、1997年）など</p>		
学びの手立て	<p>① 履修の心構え 単に出席しただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。予習（配付資料の精読）、復習（ワークシートの提出）にしっかり取り組んでください。 ② 学びを深めるために 講義内容を振り返ることができる、自分独自の「ノート作成術」を確立してください。ノートは、講義中に作成する「メモ」、講義資料、板書内容等に基づいて、講義の後に復習を兼ねて作成するものです。また、講義内容を振り返り、理解度を確認するためにワークシートを課します。ワークシートは評価の対象とします。</p>		
評価	<p>到達目標（1）の評価：レポート形式の学期末試験（60%） 到達目標（2）（3）の評価：課題、ワークシートの内容（25%） 到達目標（4）の評価：課題、ワークシートの提出（15%） の総合評価とします。なお、それぞれの評価基準については、初回の講義の時に説明します。 また、出席回数が講義の3分の2に満たない者は試験の評価の対象としません。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>歴史をより多面的に理解するために、「世界の歴史Ⅱ」「日本の歴史Ⅰ・Ⅱ」「沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱ」等を履修した上で、「人間文化課題研究Ⅰ・Ⅱ」を修得することを勧めます。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 世界の歴史Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 月3	単位 2
	担当者 藤波 潔	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、17～18世紀のヨーロッパ史、とくに近代思想の発展とイギリス、フランスの国内政治史との関係について理解することを目的とします。しかし、ヨーロッパ近代思想成立の際にコーヒーハウスが重要な役割を果たしたため、「コーヒーの拡大」をサブテーマとします。また、歴史学は「考える学問」なので、ワークシートの作成を通じた「歴史的なものの考え方」の修得も目的とします。	メッセージ 高校までの暗記による歴史学習とは異なる、当事者として歴史を考える学びを身につけてもらえるような講義とします。登録だけして講義に出ない人が多くいますので、そうしたことは避けてください。
	到達目標 (1) 近代ヨーロッパ社会の歴史を思想的側面から理解し、国内状況と政治思想との関係について論理的に説明できる。 (2) 過去の出来事の状態や意義を、当事者の立場に立って考え、自分の言葉で表現できる。 (3) 歴史に関する資料・史料を分析・読解し、その結果を表現できる。 (4) 時間外学習に主体的に取り組み、「考える歴史学」を学ぼうとする姿勢を有することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	09/19 ガイダンス：講義に関するルールは何か？	ワークシート提出
	2	10/03 コーヒーの誕生：コーヒーの実態と起源伝説との間のギャップとは何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	3	10/10 イスラーム世界におけるコーヒー①：スーフィズムとコーヒーにはどんな関係があるか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	4	10/17 イスラーム世界におけるコーヒー②：イスラーム世界でコーヒーが普及した理由は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	5	10/24 イスラーム世界におけるコーヒー③：コーヒーが世界化した理由は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	6	10/31 17世紀イギリスの思想と政治①：17世紀イギリス社会の思想的特徴は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	7	11/07 17世紀イギリスの思想と政治②：ホップズの「社会契約」の特徴は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	8	11/14 17世紀イギリスの思想と政治③：ロックの「社会契約」の特徴は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	9	11/21 17世紀イギリスの思想と政治④：名余革命後にコーヒーハウスはどのように変化したか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	10	12/05 フランス社会と文化①：フランスの宮廷文化の特徴とは何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	11	12/12 フランス社会と文化②：18世紀の都市化が文化に与えた影響とは何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	12	12/19 フランス社会と文化③：カフェは文化の拡大にどんな影響を与えたか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	13	12/26 啓蒙思想とコーヒー①：啓蒙思想とはどんな思潮なのか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	14	01/16 啓蒙思想とコーヒー②：啓蒙思想家は、フランス社会をどのように認識していたのか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	15	01/23 啓蒙思想とコーヒー③：カフェとフランス革命の関係は何か？	配付資料の精読
16	レポート型学期末試験	学期末試験の準備	

実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しない。 主な参考資料は下記の通り。 ①ユーカーズ『オール・アバウト・コーヒー』（TBSブリタニカ、1995年）②小林章夫『コーヒー・ハウス』（講談社、2000年）④村岡健次・川北稔『イギリス近代史 [改訂版]』（ミネルヴァ書房、2004年）⑤長谷川輝夫他『ヨーロッパ近世の開花』（中央公論社、1997年）他
----	--

学びの手立て	① 履修の心構え 単に出席しただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。予習（配付資料の精読）、復習（ワークシートの提出）にしっかり取り組んでください。 ② 学びを深めるために 講義内容を振り返ることができる、自分独自の「ノート作成術」を確立してください。ノートは、講義中に作成する「メモ」、講義資料、板書内容等に基づいて、講義の後に復習を兼ねて作成するものです。また、講義内容を振り返り、理解度を確認するためにワークシートを課します。ワークシートは評価の対象とします。
--------	---

評価	到達目標（1）の評価：学期末試験（60%） 到達目標（2）（3）の評価：ワークシートの内容（25%） 到達目標（4）の評価：ワークシートの提出（15%） の総合評価とします。なお、それぞれの評価基準については、初回の講義の時に説明します。 また、出席が講義回数の3分の2に満たない者は、試験の評価の対象とはしません。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 歴史をより多面的に理解するために、「世界の歴史Ⅰ」「日本の歴史Ⅰ・Ⅱ」「沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱ」等を履修した上で、「人間文化課題研究Ⅰ・Ⅱ」を修得することを勧めます。
-------	---

※ポリシーとの関連性 人間のあり方について、日常的な場面から疑問を立ち上げて哲学的に考える。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	哲学 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村井 忠康	1 年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	哲学において議論されてきたさまざまな問題について、身近な例に即して考える。取り上げる問題は未決の問題ばかりだが、だからこそ、自分で考える意義があるとも言える。哲学の問題に触れながら、日々当たり前と思っている常識をいったん疑い、吟味することを通じて、主体的かつ論理的に考える能力を養うことが、この授業のねらいである。	授業中の発言やリアクションペーパーを通じて、自分の考えを言葉にしてほしい。最初は漠然とした考えや表現であっても、教師や出席者との対話を重ねることで次第に明確になっていくものである。

学びの準備	到達目標
	①さまざまな哲学的立場について、ポイントを押さえた理解ができるようになる。 ②哲学の問題について、例に即して考えることができるようになる。 ③概念的・原理的なレベルにまで掘り下げて、物ごとを考えることができるようになる。 ④根拠を挙げながら自分の理解や見解を論述できるようになる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：この講義で扱う「哲学」について	シラバス・配布資料の確認
	2	知識論 (1) 「知っている」とはどういうことか	配布資料の熟読
	3	知識論 (2) 知識の伝統的定義に対する異議	配布資料の熟読
	4	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
	5	人格の同一性 (1) 問題の所在と身体説	配布資料の熟読
	6	人格の同一性 (2) 心理説の展開	配布資料の熟読
	7	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
	8	レポートの書き方	配布資料の熟読
	9	心の哲学 (1) 実体二元論 vs. 心脳同一説	配布資料の熟読
	10	心の哲学 (2) 機能主義	配布資料の熟読
	11	心の哲学 (3) クオリア問題	配布資料の熟読
	12	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
	13	行為の哲学 (1) 古典的意志理論 vs. 反因果説	配布資料の熟読
	14	行為の哲学 (2) 因果説	配布資料の熟読
15	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読・レポート準備	
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストはとくに指定しないが、毎回プリントを配布する。参考文献は、入手しやすさや読みやすさ、価格などを考慮しつつ適宜紹介する。ここでは、以下の二つを挙げておく。 野矢茂樹『哲学の謎』、講談社現代新書、1996 年 門脇俊介『現代哲学』、産業図書、1996年

学びの実践	学びの手立て
	・授業時には、意識的に疑問点を見つけて書き留めること。さらに踏み込んで、どうして自分がそうした疑問をもつのか、その理由についても考えてみる。 ・授業の復習では、扱った内容を振り返るだけでなく、自分なりに文章化して再現することが重要。これができるようになるにつれて、授業の理解度も上がってゆく。 ・紹介する参考文献のうち、少なくとも一冊は考えながら読み切ってほしい。疑問のたびに立ち戻ることができる哲学書ができるなら、レポートの作成で壁にぶち当たったとき必ず役立つ。

学びの実践	評価
	リアクションペーパーの提出状況 (40%) 学期末レポート (60%) ・毎回授業の最後に10～15分ほどリアクションペーパー記入の時間を設ける。コメントや疑問を積極的に記入することが求められる。 ・レポートでは具体的な問いを課すが、授業で紹介した哲学的立場への賛否をその理由とともに述べるのが求められる。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	「哲学Ⅱ」、「倫理学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「人間文化課題研究Ⅰ」および「同Ⅱ」など。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	哲学Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村井 忠康	1年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	哲学において議論されてきたさまざまな問題について、身近な例に即して考える。取り上げる問題はいまま未決の問題ばかりだが、だからこそ、自分で考える意義があるとも言える。哲学の問題に触れながら、日々当たり前と思っている常識をいったん疑い、吟味することを通じて、主体的かつ論理的に考える能力を養うことが、この授業のねらいである。	授業中の発言やリアクションペーパーを通じて、自分の考えを言葉にしてほしい。最初は漠然とした考えや表現であっても、教師や出席者との対話を重ねることで次第に明確になっていくものである。
到達目標	①さまざまな哲学的立場について、ポイントを押さえた理解ができるようになる。 ②哲学の問題について、例に即して考えることができるようになる。 ③概念的・原理的なレベルにまで掘り下げて、物ごとを考えることができるようになる。 ④根拠を挙げながら自分の理解や見解を論述できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：この講義で扱う「哲学」について	シラバス・配布資料の確認
	2	懐疑論（1）デカルトの方法的懐疑	配布資料の熟読
	3	懐疑論（2）懐疑論の分析	配布資料の熟読
	4	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
	5	知覚の哲学（1）知覚の隙間を埋める想像力という考え方	配布資料の熟読
	6	知覚の哲学（2）知覚を可能にする想像力という考え方	配布資料の熟読
	7	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
	8	レポートの書き方	配布資料の熟読
	9	自由意志の問題（1）決定論と自由	配布資料の熟読
	10	自由意志の問題（2）両立論	配布資料の熟読
	11	自由意志の問題（3）非両立論	配布資料の熟読
	12	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
	13	価値論（1）価値経験は錯覚であるという考え方	配布資料の熟読
14	価値論（2）価値経験は錯覚ではないという考え方	配布資料の熟読	
15	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストはとくに指定しないが、毎回プリントを配布する。参考文献は、入手しやすさや読みやすさ、価格などを考慮しつつ適宜紹介する。ここでは、以下の二つを挙げておく。 野矢茂樹『哲学の謎』、講談社現代新書、1996年 門脇俊介『現代哲学』、産業図書、1996年		
	学びの手立て		
	・授業時には、意識的に疑問点を見つけて書き留めること。さらに踏み込んで、どうして自分がそうした疑問をもつのか、その理由についても考えてみる。 ・授業の復習では、扱った内容を振り返るだけでなく、自分なりに文章化して再現することが重要。これができるようになるにつれて、授業の理解度も上がってゆく。 ・紹介する参考文献のうち、少なくとも一冊は考えながら読み切ってほしい。疑問のたびに立ち戻ることができる哲学書ができるなら、レポートの作成で壁にぶち当たったとき必ず役立つ。		
	評価		
	リアクションペーパーの提出状況（40%） 学期末レポート（60%） ・毎回授業の最後に10～15分ほどリアクションペーパー記入の時間を設ける。。授業内容についてのコメントや疑問を積極的に記入することが求められる。 ・レポートでは具体的な問いを課すが、授業で紹介した哲学的立場への賛否をその理由とともに述べることが求められる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「哲学1」、「倫理学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「人間文化課題研究Ⅰ」および「同Ⅱ」など。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本の歴史 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	1年	t. ichikawa@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では健康および病気と社会の関係をテーマとする。日本人の健康観が歴史的にどのように形成されたのか、現代社会にどのように継承されているのかを考える機会としたい。なお、欧米諸国および近隣のアジア諸国との比較、日本における沖縄の位置づけについても、なるべく触れる予定である。	健康という概念は、時代や国・地域によって大きく異なる。それは、政治・社会・文化・宗教・環境のあり方を背景として、人間の身体および自然環境への認識や、病気に対する理解が多様だからである。本講義は日本史の未学習者も歓迎する。各回、必要に応じて基礎的な知識も提供する。
到達目標	①健康や病気に対する認識が固定的でないことを理解し、その背景にある社会的・自然的要素との関係を説明できる。 ②現代の健康や病気の問題を、歴史的な視点をもってとらえることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義計画の説明、受講に際しての注意	事前にシラバスを熟読のこと。
	2	結核の歴史：人骨、労咳、女工	配布資料の復習、参考文献の確認。
	3	同上	同上
	4	同上	同上
	5	天然痘の歴史：仏教、貴族社会、西洋科学の導入	同上
	6	同上	同上
	7	同上	同上
	8	健康と医療に関する映像資料の視聴と批評	同上
	9	ハンセン病の歴史：仏教医療、療養所、差別問題	同上
	10	同上	同上
	11	同上	同上
	12	ペストの歴史：港湾労働、都市計画、植民地統治	同上
	13	同上	同上
	14	同上	同上
15	まとめ	前期分の復習	
16	試験	前期分の復習	

テキスト・参考文献・資料など	教科書は使用せず、レジュメを配布する。各論にかかわる文献はその都度紹介する。講義全体にかかわる参考文献は以下の通り。 ・鹿野正直『健康観にみる近代』朝日新聞社、2001年 ・飯島渉『感染症の中国史：公衆衛生と東アジア』（中公新書）中央公論新社、2009年 ・山本太郎『感染症と文明：共生への道』（岩波新書）岩波書店、2011年
----------------	--

学びの手立て	①履修の心構え：以下について厳格に対処します。 ・遅刻、私語、居眠り、イヤホン装着などは、その場で退室してもらいます。 ・【重要】講義中はスマートフォンの操作を禁止します。必ずカバンにしまうこと。 ・課外活動などによる欠席届を提出しても考慮の対象としません。 ②学びを深めるために ・講義内容の骨格を記したレジュメを毎回配布し、あわせて、歴史資料、絵図、動画などの視聴覚資料をみてもらう。講義の説明内容、視聴覚資料をみて考えたこと、疑問に思ったことなどを各自でノートに記入すること。自分なりの記録方法と予習・講義・復習のサイクルを身に付けて欲しい。
--------	---

評価	①ひとつのテーマにつき2回程度リアクション・ペーパーを実施する。5点×10回=50点) ②理解度を確認するため論述式の試験を学期末に実施する。(50点×1回=50点)。 以上の計100点満点で成績評価します。リアクション・ペーパーの提出回数が2/3に満たない場合は、試験の結果に関係なく不可となります。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本の歴史I」で扱わなかった疾病を対象に、「日本の歴史II」で同様のテーマの講義を行うので、できるだけ両方とも履修すること。「人間文化課題研究I」および「同II」で、同様のテーマを扱ったゼミを開講します。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本の歴史Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	1年	t.ichikawa@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では健康および病気と社会の関係をテーマとする。日本人の健康観が歴史的にどのように形成されたのか、現代社会にどのように継承されているのかを考える機会としたい。なお、欧米諸国および近隣のアジア諸国との比較、日本における沖縄の位置づけについても、なるべく触れる予定である。	健康という概念は、時代や国・地域によって大きく異なる。それは、政治・社会・文化・宗教・環境のあり方を背景として、人間の身体および自然環境への認識や、病気に対する理解が多様だからである。本講義は日本史の未学習者も歓迎する。各回、必要に応じて基礎的な知識も提供する。
	到達目標	
	①健康や病気に対する認識が固定的でないことを理解し、その背景にある社会的・自然的要素との関係を説明できる。 ②現代の健康や病気の問題を、歴史的な視点をもってとらえることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義計画の説明、受講に際しての注意	事前にシラバスを熟読のこと。
	2	コレラの歴史：国際貿易、軍隊、公衆衛生	配布資料の復習、参考文献の確認。
	3	同上	同上
	4	同上	同上
	5	インフルエンザの歴史：スペイン風邪を通してみる日本社会	同上
	6	同上	同上
	7	同上	同上
	8	健康と医療に関する映像資料の視聴と批評	同上
	9	マラリアおよびフィラリアの歴史：風土病、熱帯医学、九州・沖縄	同上
	10	同上	同上
	11	同上	同上
	12	日本住血吸虫症の歴史：風土病、寄生虫症、環境改変	同上
	13	同上	同上
	14	同上	同上
15	まとめ	後期分の復習	
16	試験	後期分の復習	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	教科書は使用せず、レジュメを配布する。各論にかかわる文献はその都度紹介する。講義全体にかかわる参考文献は以下の通り。 ・鹿野正直『健康観にみる近代』朝日新聞社、2001年 ・飯島渉『感染症の中国史：公衆衛生と東アジア』（中公新書）中央公論新社、2009年 ・山本太郎『感染症と文明：共生への道』（岩波新書）岩波書店、2011年
	学びの手立て
	①履修の心構え：以下について厳格に対処します。 ・遅刻、私語、居眠り、イヤホン装着などは、その場で退室してもらいます。 ・【重要】講義中はスマートフォンの操作を禁止します。必ずカバンにしまうこと。 ・課外活動などによる欠席届を提出しても考慮の対象としません。 ②学びを深めるために ・講義内容の骨格を記したレジュメを毎回配布し、あわせて、歴史資料、絵図、動画などの視聴覚資料をみてもらう。講義の説明、視聴覚資料をみて考えたこと、疑問に思ったことなどを各自でノートに記入すること。自分なりの記録方法と予習・講義・復習のサイクルを身に付けて欲しい。
	評価
	①ひとつのテーマにつき2回程度リアクション・ペーパーを実施する。（5点×10回=50点） ②理解度を確認するため論述式の試験を学期末に実施する。（50点×1回=50点）。 以上の計100点満点で成績評価します。リアクション・ペーパーの提出回数が2/3に満たない場合は、試験の結果に関係なく不可となります。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	「日本の歴史II」で扱わなかった疾病を対象に、「日本の歴史I」で同様のテーマの講義を行うので、できるだけ両方とも履修すること。「人間文化課題研究I」および「同II」で、同様のテーマを扱ったゼミを開講します。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究 I	通年	水 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村井 忠康	2年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	肉食は悪いことだろうか。5人の人を助けるために1人を犠牲にするのはよいことだろうか。この授業では、こうした倫理的問題の答えでなく、そもそも倫理的によいか悪いか言うときの「善悪」とは何を意味しているのかという問題を考えてみたい。倫理へのこのようなアプローチはメタ倫理学と呼ばれる。メタ倫理学の入門書を読みながら、倫理的思考の根本的前提に迫ってみたい。	まずは気軽に口を開くことから始めてほしい。自由に意見を出し合いながら哲学書を読む体験を通じて、一人で考えることだと思われるがちな哲学が共同作業の一種でもありうるということが実感できるはずである。
到達目標	倫理学を含む哲学の問題について考えるためには本を読む必要がある。しかし、読めばいいというものでもない。たくさん哲学書を読んだら哲学用語に詳しくなるとしても、それをもとに自分で考えることができなければ、哲学をしていることにはならない。それができるようになる一つの道は、「わかりそうだけどすぐにはわからない、でもわかりたい」と思える哲学の文章をじっくり何度も読むことだろう。そこで、この授業の目標は次の二点とする。 ①書かれている内容を口頭で説明できようになる。 ②ある程度まとまった文章で自分の見解を述べるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：授業の進め方の説明	シラバス・配布資料の確認
	2	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	3	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	4	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	5	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	6	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	7	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	8	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	9	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	10	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	11	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	12	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	13	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	14	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	15	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	16	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	17	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	18	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	19	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	20	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	21	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	22	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	23	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	24	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	25	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	26	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	27	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	28	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	29	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
30	レジュメ発表と議論	テキスト総復習	
31	予備日		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト： ①佐藤岳詩『「倫理の問題」とは何かーメタ倫理学から考える』、光文社新書、2012年、②佐藤岳詩『メタ倫理学入門ー道徳のそもそもを考える』、勁草書房、2017年。まず①から読む。②は後期に入ってから抜粋して読むことになるだろう。①については購入を推奨する。②については扱う箇所のコピーを配布するので、必ずしも購入する必要はない。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議論とは、一緒に何かを作り出すことだという意識をもってほしい。お互いの間違いを修正し合うことを通じて、一人では思いもよらなかった結論に達するなら、それは共同作業を成し遂げることでもある。 ・履修者の人数次第だが、毎回担当者が事前にレジюмеを作成し、それをもとにテキストの内容を簡単に報告してもらおう。それを受けて全員で議論する。（履修者が少ない場合は輪読形式をとる。）
	<p>評価</p> <p>レジюме報告形式の場合：平常点100% 輪読形式の場合：各学期末のレポート60% 平常点40%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「哲学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「倫理学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「エコロジーの思想」、「環境の倫理学」など。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究 I	通年	火 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	2年	研究室：5-501 アポ：kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	固有言語による表現を通じて、多数派の文化のみならず、さまざまな人間の文化を知り、文化とコミュニケーションのあり方を探ることで、多文化共生の道を目指します。	1. 前後期の初日に注意事項があります。参加は必須です。 2. 現生人類が誕生してから約20万年と言われますが「文明」が誕生してからは5000年ほどしか経っていません。人間の文化的な営みについて「ことば」を通して、迫っていきたいと思います。
到達目標	人間の多様な文化に関心を持ち、それら文化を尊重して、「ことば」の側面からアプローチできる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスの確認
	2	人間文化の言語テキスト課題配布&解説 (前期分)	資料検索
	3	人間文化の言語テキストの解説	辞書、関係資料の精読
	4	人間文化の言語テキスト課題配布&解説 (後期分)	資料検索
	5	人間文化の言語テキストの解説	資料精読
	6	課題の選択・決定 (個別・グループ)	資料精読
	7	評価基準の解説と事例	資料精読
	8	課題関連の基礎知識 (宗教について)	資料精読
	9	課題関連の基礎知識 (宗教について)	資料精読
	10	課題関連の基礎知識 (日本の宗教)	資料精読
	11	課題関連の基礎知識 (集団・社会)	資料精読
	12	課題関連の基礎知識 (集団・社会)	資料精読
	13	課題関連の基礎知識 (日本の集団・社会)	資料精読
	14	中間テスト (基礎知識の確認)	資料精読
	15	課題の設定 (後期に向けて)	課題 (夏休み)
	16	後期オリエンテーション	講義準備
	17	設定した課題の進捗報告とディスカッション	資料精読
	18	設定した課題の進捗報告とディスカッション	資料精読
	19	設定した課題の進捗報告とディスカッション	資料精読
	20	課題の作成 (ppt/動画)	資料精読
	21	課題の作成 (ppt/動画)	資料精読
	22	課題の作成 (ppt/動画)	資料精読
	23	課題の作成 (ppt/動画)	資料精読
	24	進捗の確認・報告	課題の要約を作成
	25	進捗の確認・報告	課題の要約を作成
	26	課題のプレゼンと相互評価	課題の修正
	27	課題のプレゼンと相互評価	課題の修正
	28	課題の修正と完成	課題の修正
29	提出すべき課題の最終確認	課題の修正	
30	提出すべき課題の最終確認	総復習	
31	総復習	総復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など その都度指示します。辞典を各自毎回持参してください（紙媒体・電子辞書いずれも可）。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 「ことば」に関心のある人の受講を求めます。通年の発表形式の授業です。課題への取り組みは大学生レベルの執筆を心がけて下さい。</p>
	<p>評価 課題（グループ・個人）＝各40%、中間テスト（基礎知識の確認）＝20%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 コミュニケーション論（共通科目）あるいは多文化共生論（日本文化学科科目）</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究 I	通年	木 3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	2年	t. ichikawa@okiui.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	このゼミでは、健康および病気と社会の関係をテーマとする。映画や文学作品を鑑賞し、感じたこと・考えたことを議論することで、日本人の健康観がどのように形成されたのか、現代社会にどのように継承されているのかを論理的に考察する場としたい。	健康、病気、医療をテーマとした小説および映画を教室で鑑賞した後、批評を行います。受講者には前期および後期ともに2, 3週ごとに報告がまわってきます。発表および議論を練習する場にもなるので、積極的な参加を希望します。
到達目標	①健康、病気、医療、保健の歴史について、基本的な文献を読解し、疑問点を自ら調べることができる。 ②健康、病気、医療、保健をテーマにした芸術作品（映画、小説）を鑑賞し、それを批評することができる。 ③現代の健康や病気の問題を、歴史的な視点をもってとらえることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	ガイダンス：講義計画の説明、受講に際しての注意	事前にシラバスを熟読のこと。
	2	映画鑑賞・批評に関する文献精読	発表の準備、参考文献の確認。
	3	同上	同上
	4	同上	同上
	5	同上	同上
	6	健康と病気の歴史に関する文学作品あるいは映画作品を用いた批評と議論	発表の準備、参考文献の確認。
	7	同上	同上
	8	同上	同上
	9	同上	同上
	10	同上	同上
	11	同上	同上
	12	同上	同上
	13	同上	同上
	14	同上	同上
	15	同上	同上
	16	健康と病気の歴史に関する文学作品あるいは映画作品を用いた批評と議論	同上
	17	同上	同上
	18	同上	同上
	19	同上	同上
	20	同上	同上
	21	同上	同上
	22	同上	同上
	23	同上	同上
	24	同上	同上
	25	同上	同上
	26	同上	同上
	27	同上	同上
	28	同上	同上
	29	同上	同上
30	同上	同上	
31	通年のまとめ	通年分の確認	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。講義に先立って以下の文献を輪読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・K. M. ゴックシクほか『映画で実践！アカデミックライティング』（小島遊書房、2019年） ・今泉容子『映画の文法—日本映画のショット分析—』改訂増補版（彩流社、2019年） ・丹治愛ほか『文学批評への招待』（放送大学教育振興会、2018年）
	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2週目からテキストの輪読を行うため、履修予定者は第1週目の講義に必ず出席すること。 <p>②学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションやディスカッションの方法については、適宜助言します。 ・疑問点の提示でも構わないので、発表後の議論に積極的に参加すること。 ・条件が整えば、1, 2回程度、映画館での鑑賞を計画します。
	<p>評価</p> <p>①講義での発表、議論への参加程度（20点）</p> <p>②前期レポート（40点×1回=40点）</p> <p>※②をもとに、沖国大図書館主催の書評・映画評賞に応募していただきます。</p> <p>③後期レポート（40点×1回=40点）</p> <p>以上の計100点満点で成績評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「日本の歴史I, II」で、同様のテーマを講義形式で開講します。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究Ⅱ	通年	水4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村井 忠康	3年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	肉食は悪いことだろうか。5人の人を助けるために1人を犠牲にするのはよいことだろうか。この授業では、こうした倫理的問題の答えでなく、そもそも倫理的によいか悪いか言うときの「善悪」とは何を意味しているのかという問題を考えてみたい。倫理へのこのようなアプローチはメタ倫理学と呼ばれる。メタ倫理学の入門書を読みながら、倫理的思考の根本的前提に迫ってみたい。	まずは気軽に口を開くことから始めてほしい。自由に意見を出し合いながら哲学書を読む体験を通じて、議論というものが共同作業の一種であることが実感できるはずである。
到達目標	倫理学を含む哲学の問題について考えるためには本を読む必要がある。しかし、読めばいいというものでもない。たくさん哲学書を読んだら哲学用語に詳しくなるとしても、それをもとに自分で考えることができなければ、哲学をしていることにはならない。それができるようになる一つの道は、「わかりそうだけどすぐにはわからない、でもわかりたい」と思える哲学の文章をじっくり何度も読むことだろう。そこで、この授業の目標は次の二点とする。 ①書かれている内容を口頭で説明できようになる。 ②ある程度まとまった文章で自分の見解を述べるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	ガイダンス：授業の進め方の説明	シラバス・配布資料の確認
	2	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	3	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	4	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	5	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	6	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	7	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	8	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	9	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	10	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	11	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	12	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	13	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	14	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	15	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	16	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	17	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	18	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	19	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	20	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	21	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	22	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	23	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	24	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	25	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	26	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	27	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	28	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
	29	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
30	レジュメ発表と議論	テキスト総復習	
31	予備日		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>①佐藤岳詩『「倫理の問題」とは何かーメタ倫理学から考える』、光文社新書、2012年、②佐藤岳詩『メタ倫理学入門ー道徳のそもそもを考える』、勁草書房、2017年。まず①から読む。②は後期に入ってから抜粋して読むことになるだろう。①については購入を推奨する。②については扱う箇所のコピーを配布するので、必ずしも購入する必要はない。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議論とは、一緒に何かを作り出すことだという意識をもってほしい。お互いの間違いを修正し合うことを通じて、一人では思いもよらなかった結論に達するなら、それは共同作業を成し遂げることでもある。 ・履修者の人数次第だが、毎回担当者が事前にレジюмеを作成し、それをもとにテキストの内容を簡単に報告してもらおう。それを受けて全員で議論する。（履修者が少ない場合は輪読形式をとる。）
	<p>評価</p> <p>レジюме報告形式の場合：平常点100% 輪読形式の場合：各学期末のレポート60% 平常点40%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「哲学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「倫理学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「エコロジーの思想」、「環境の倫理学」など。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究Ⅱ	通年	火 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	3年	研究室番号：5-501 アポはメールにて；kane moto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	固有言語による表現を通じて、多数派の文化のみならず、さまざまな人間の文化を知り、文化とコミュニケーションのあり方を探ることで、多文化共生の道を目指します。	1. 前後期の初日に注意事項があります。参加は必須です。 2. 現生人類が誕生してから約20万年と言われますが「文明」が誕生してからは5000年ほどしか経っていません。人間の文化的な営みについて「ことば」を通して、迫っていきたいと思います。
到達目標	人間の多様な文化に関心を持ち、それら文化を尊重して、「ことば」の側面からアプローチできる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・オンライン環境の確認	シラバスの確認
	2	人間文化の言語テキスト課題配布&解説（前期分）	資料検索
	3	人間文化の言語テキスト課題の解説	辞書、関係資料の精読
	4	人間文化の言語テキスト課題配布&解説（後期分）	資料検索
	5	人間文化の言語テキストの解説	資料検索
	6	課題の選択・決定（個別・グループ）	資料検索
	7	評価基準の解説と事例	資料検索
	8	課題関連の基礎知識（宗教について）	資料検索
	9	課題関連の基礎知識（宗教について）	資料検索
	10	課題関連の基礎知識（日本の宗教）	資料検索
	11	課題関連の基礎知識（集団・社会）	資料検索
	12	課題関連の基礎知識（集団・社会）	資料検索
	13	課題関連の基礎知識（日本の集団・社会）	資料検索
	14	中間テスト（基礎知識の確認）	資料検索
	15	課題の設定（後期に向けて）	課題（夏休み）
	16	後期オリエンテーション	講義準備
	17	設定した課題の進捗報告とディスカッション	資料精読
	18	設定した課題の進捗報告とディスカッション	資料精読
	19	設定した課題の進捗報告とディスカッション	資料精読
	20	課題の作成（ppt/動画）	資料精読
	21	課題の作成（ppt/動画）	資料精読
	22	課題の作成（ppt/動画）	資料精読
	23	課題の作成（ppt/動画）	資料精読
	24	進捗の確認・報告	課題の要約を作成
	25	進捗の確認・報告	課題の要約を作成
	26	課題のプレゼンと相互評価	課題の修正
	27	課題のプレゼンと相互評価	課題の修正
	28	課題の修正と完成	課題の修正
29	提出すべき課題の最終確認	課題の修正	
30	提出すべき課題の最終確認	学期の復習	
31	総復習	総復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など その都度指示します。辞典を各自毎回持参してください（紙媒体・電子辞書いずれも可）。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 「ことば」に関心のある人の受講を求めます。通年の発表形式の授業です。課題への取り組みは大学生レベルの執筆を心がけてください。</p>
	<p>評価 課題（グループ・個人）＝各40%、中間テスト（基礎知識の確認）＝20%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 コミュニケーション論（共通科目）あるいは多文化共生論（日本文化学科科目）</p>

※ポリシーとの関連性

フェミニズムという思想を通して社会をみる。そのことによって自分らしい生き方と社会を変革する力をつける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フェミニズム思想	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	1年	ガイダンスにおいて説明します。	

学びの準備	ねらい フェミニズムが問題にしてきたことをキーワードを中心に理解し、支配されない/支配しない社会の構築をめざす。	メッセージ フェミニズムはみんなのもの！
	到達目標 フェミニズム思想を学ぶことによって、視野を広げる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、概説	シラバスをよく読んでください
	2	家父長制を理解する	配布資料を熟読すること
	3	魔女狩りとフェミニズム	配布資料を熟読すること
	4	市民革命とフェミニズム	配布資料を熟読すること
	5	ロマンティックラブ・イデオロギーと母性イデオロギー	配布資料を熟読すること
	6	第一波フェミニズムと第二波フェミニズム	配布資料を熟読すること
	7	ポストフェミニズム と第三波フェミニズム	配布資料を熟読すること
	8	国民国家とフェミニズム	配布資料を熟読すること
	9	ホモフォビアとミソジニー	配布資料を熟読すること
	10	男らしさのボックスからの解放	配布資料を熟読すること
	11	象徴としての女性像	配布資料を熟読すること
	12	日本社会とフェミニズム(1)	配布資料を熟読すること
	13	日本社会とフェミニズム(2)	配布資料を熟読すること
	14	沖縄社会とフェミニズム(1)	配布資料を熟読すること
15	沖縄社会とフェミニズム(2)	配布資料を熟読すること	
16	課題 (テスト)	半期間の総復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。参考文献は講義テキストにて適宜紹介します。		
	学びの手立て 自分の問題や問いと向かい合いながら受講してください。毎回の受講の積み重ねが力になります。なお、授業計画は学生のコメントの内容から差し替えたり順番が変更する可能性もあります。その場合はポータルの授業連絡でお知らせします。		
	評価 毎回の講義において課題を与える。課題をCalaboのコメントに書き提出すること。そのことが授業参加になる。授業参加度（80%）と16回目の課題（20%）を基本として評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目、次のステージ：「女性と文化」「女性と歴史」「ジェンダー論」「哲学」など
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文学 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岡野 薫	1年	k.okanoあつとまあくoki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業は文学を入口として異文化を知ることがねらいです。ドイツ語圏の文学を扱います。「文学 I」は、ドイツ語圏とは何かからスタートして、中世から現代まで、その時々の特徴的な作品に光をあてて紹介します。背景となる文化、社会、歴史と併せて作品をみてゆきましょう。	メッセージ Moodle, Teams, Wordを使います。初回のガイダンスに必ず出席してください。作品が提示する生き方や考え方に共感できるかもしれません。あるいは、まったく異なる考え方にであうかも知れません。文学を通じて、さまざまな生き方、考え方にふれてください。そしてじぶんで考えてみましょう。講義形式の授業ですが、コメントやリアクション・ペーパーの提出を求めています。
	到達目標 講義を通じて次のことを学ぶことができます。 ①ドイツ語圏の文学について具体的な作品を挙げ、それを説明することができる。 ②作品を通じてさまざまな生き方や考え方を学び、それに対するじぶんの見解を述べるすることができる。 ③文学を通じてドイツ語圏の世界観を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：ドイツ語圏の成立（使用するアプリの説明をするので、出席をお願いします）	シラバスをよく読む
	2	盛者必衰—英雄叙事詩—：『ニーベルンゲンの歌』	参考文献を読む
3	盛者必衰—英雄叙事詩—：『ニーベルンゲンの歌』	参考文献を読む	
4	高い「義しさ」を求めて—宗教改革と文学—：ルター『キリスト者の自由』	参考文献を読む	
5	ドイツ人とユダヤ人—文学における他者—：グリム童話「いばらの中のユダヤ人」	参考文献を読む	
6	ドイツ人とユダヤ人—共生の夢—：レッシング『賢者ナータン』	参考文献を読む	
7	シュトゥルム・ウント・ドラング：ゲーテ『若きウェルテルの悩み』	参考文献を読む	
8	シュトゥルム・ウント・ドラング：ゲーテ『若きウェルテルの悩み』	レビューを書く	
9	人生の探求—ゲーテの世界—：『ファウスト』	参考文献を読む	
10	時よ留まれ！—ゲーテにみる死と生—：『ファウスト』	参考文献を読む	
11	不気味さの解剖—幻想文学—：E・T・A・ホフマン『砂男』	参考文献を読む	
12	ある朝のできごと—非日常的な日常—：カフカ『変身』	参考文献を読む	
13	自分自身への道—大衆時代の文学—：ヘッセ『デーミアン』	参考文献を読む	
14	時間を生きる—児童文学の世界—：エンデ『モモ』	参考文献を読む	
15	過ぎ去らぬ過去—21世紀の小説—：シーラッハ『コリーニ事件』	レポートの準備	
16	レポート提出	前期の学びのふりかえり	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。 参考文献：手塚富雄，神品芳夫著『増補 ドイツ文学案内』（岩波文庫，1993，ISBN：978-4003500033）。 資料：授業時に随時紹介します。		
	学びの手立て 次のことを実践してみてください。 ①参考文献に挙げた『ドイツ文学案内』を読む。同書は簡単に入手でき、初学者にもやさしいロングセラーです。授業と並行して読むと、ドイツ語圏についてより深く理解できます。 ②作品を読む。文学を学ぶには自分で作品を読むことがいちばん大切です。授業で紹介した作品は難解なものではありません。ぜひ手に取って読んで下さい。		
	評価 平常点（授業参加，リアクション・ペーパー）40%，学期末試験（場合によってはレポート）60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：文学 II，関連科目：ヨーロッパ研究，ドイツ語
-------	---

※ポリシーとの関連性 フランス語圏の文学を通して、日本とは異なる文化に培われた人間の「感性」に触れます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文学Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲 律子	1年	沖国大ポータルGmailにて質問してください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>歴史が事実の記録だとすれば、文学はその時代を生きた人間の「感性」の記録だと言えるでしょう。この授業ではフランス語圏の文学を1つの窓として、私たちとは異なる文化を背景としている人々の「ものの見方」に触れ、また、その時代による変遷を追いながら、人間の在り方への考察を深めることを目指します。</p>	<p>読書は旅することに似ています。フランス語圏の本を読むことを通じて、「時」と「場」を越えた世界を旅してみましょう。ただし、その「冒険」に、手ぶらで旅立てる人もいれば、旅の装備が必要な人もいます。どちらの人も、その本の「扉」を開く前に、この授業で旅の準備を整えてみませんか。</p>
到達目標	<p>次の3つの点を習得することを目標とします。</p> <p>①フランス語圏の文学において、時代を代表する作品の概要を把握すること。</p> <p>②その作品が生み出された時代的な背景や作者自身の生き方についての知識を獲得すること。</p> <p>③その作品から浮かび上がる時代的な眼差しへの理解を深めること。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	課題の作成
	2	フランス文学の背景についての紹介(1)	課題の作成
	3	フランス文学の背景についての紹介(2)	課題の作成
	4	16世紀:ラブレール『ガルガンチュアとパンタグリユエル物語』(1)	課題の作成
	5	16世紀:ラブレール『ガルガンチュアとパンタグリユエル物語』(2)	課題の作成
	6	17世紀:ペロー『昔話集』(1)	課題の作成
	7	17世紀:ペロー『昔話集』(2)	課題の作成
8	18世紀:ベルナルダン・ド・サン=ピエール『ポールとヴィルジニー』(1)	課題の作成	
9	18世紀:ベルナルダン・ド・サン=ピエール『ポールとヴィルジニー』(2)	課題の作成	
10	19世紀:ユゴー『ノートル=ダム・ド・パリ』(1)	課題の作成	
11	19世紀:ユゴー『ノートル=ダム・ド・パリ』(2)	課題の作成	
12	20世紀:プルースト『失われた時を求めて』(1)	課題の作成	
13	20世紀:プルースト『失われた時を求めて』(2)	課題の作成	
14	20-21世紀:クリストフ『悪童日記』(1)	課題の作成	
15	20-21世紀:クリストフ『悪童日記』(2)	課題の作成	
16	まとめ	課題の作成	
テキスト・参考文献・資料など	<p>授業内で必要に応じてプリントを配付します。</p> <p>※参考文献についても授業内で必要に応じて紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>①「履修の心構え」</p> <p>作品を紹介する際には日本語に翻訳された本を使用します。受講にあたりフランス語の学習経験の有無を問いませんので、興味のある方は受講してください。</p> <p>②「学びを深めるために」</p> <p>何よりも大切なことは、実際に本を手に取り「読む」ことです。その繰り返しを通して本の中から多くのことを汲み取ることでできる力を身に付けていきましょう。</p>		
評価	<p>最終課題(書評)の得点(60%)と平常点(40%)で評価します。</p> <p>※ただし、単位修得のためには授業の3分の2以上の出席を義務づけます。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>今後、さらにさまざまな角度から人間の在り方についての考察を深めると同時に、日本とは異なる文化であるヨーロッパへの関心を高めて頂きたいと思っております。そのための関連科目として、人間文化課題研究Ⅰ・Ⅱ(演習)やヨーロッパ研究Ⅰ・Ⅱ(講義)、国際理解課題研究Ⅰ・Ⅱ(演習)があります。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	平和と文化	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-吉川 由紀	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 人権、平和、戦争などをテーマに、多くの人々の人生に触れながら、他者の語りに耳を傾け、理解し、自身の言葉で伝える力を養います。	メッセージ 簡単には解決方法や答えが見いだせない、この社会が抱える問題を、さまざまな切り口から考えてみませんか。講義では、現場で活動している人の報告や体験者の、生の証言を聴く時間ももちます。大学生のいまこそ、考える力を一緒に培いましょう。
	到達目標 レポートは、オーラル・ヒストリー（他者の経験と認識を聴き、記憶を記録する作業）の実践です。語りを聴く力、それを理解し第三者に伝える力を鍛えると同時に、他者を尊重しようとする力や想像力を育みます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクションー隣で生きている人の「歴史」に耳を傾ける	レポートテーマと証言者の決定
	2	沖縄戦体験者の声を聴く、記録する	同上
	3	慰霊塔／慰霊碑に聴く	同上
	4	場所に聴くー戦争遺跡を通して	聴き取り項目の検討
	5	土に聴くー遺骨収集の現場から	同上
	6	対馬丸事件に学ぶ① 事件を忘れないために	同上
	7	対馬丸事件に学ぶ② 海の戦争の実態	聴き取り、文字化、再聴き取り
	8	対馬丸事件に学ぶ③ 体験者の証言を聴く	同上
	9	ハンセン病問題の歴史を糧に① 終生絶対隔離とは何か	同上
	10	ハンセン病問題の歴史を糧に② 沖縄のハンセン病差別被害	同上
	11	ハンセン病問題の歴史を糧に③ 差別と向き合って生きる	同上
	12	ハンセン病問題の歴史を糧に④ 回復者の証言を聴く	同上
	13	何をどのように伝えるかー語りだす遺品	まとめ
	14	加害と被害を抱えて生きるー満州移民の歴史とは	同上
15	まとめー実践から見えてくるもの	他の学生のまとめを共有	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しません。毎回レジュメを配布し、動画やスライドを用いて授業をすすめます。 【参考文献】 『オキナワを平和学する』石原昌家・仲地博編、法律文化社、2005年 『新版ライブヒストリーを学ぶ人のために』谷富夫編、世界思想社、2008年 『沖縄戦を知る事典』吉浜忍・林博史・吉川由紀編、吉川弘文館、2019年 その他は、講義の中で適宜紹介します。			
学びの手立て 県内外・国内外を問わず、戦争・平和・人権問題を扱った資料館・博物館を積極的に見学すると、理解が深まります。また、証言集など聴き書きをまとめた文献に目を通すことも有意義です。			
評価 コメントシートの提出と内容（授業参加、理解・疑問の整理。30%）とレポート（70%）を総合して行います。10回以上の出席がないと、レポートは採点しません。レポートのテーマ及び執筆要綱は第1回目の講義で発表しますが、社会状況やそれに伴う授業形態の変化によって、レポートテーマを変更する場合がありますので注意してください。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 平和と文化について、人間文化科目群だけではなくその他の科目群の科目で幅広く学ぶとともに、日々の暮らしの中で平和と文化について考え続けてほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

教養科目として、受講者諸君の普遍的人間形成および研究能力の開発の一助となることを目標としています。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	倫理学 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 信哉	1年	講義時間内が望ましいのですが、講義終了時にも教室にてお聞きします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講座は、大学で学びはじめた人を対象に、倫理学の概略を伝えることを目的としています。倫理学とは道徳の学問ですが、正しいとか善いとかは感情の問題にすぎないのではないかと思う人も多いでしょう。何が正しいことか善いことかについては先人も多く考えつづけてきました。その一端を教室で紹介します。これを学ぶことが受講者諸君が本格的に考えるきっかけになることを望んでいます。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 倫理という語の本来の意味から、道徳的であるとはどういうことかまでを理解する。 ・ 現代のさまざまな倫理的立場の違いを知り、自分でも説明できるようになる。 ・ 倫理的なことがらについて、自分自身のしっかりした考えを持てるようにする。 ・ 広く好奇心を持って、いままで知らなかったことに挑戦する心構えを身につける。 	<p>予備知識は特に必要ありませんが、熱心に学ぶ意欲を期待していません。これから学ぶ人にとって知らないことは何も悪いことではありません。これから知れば良いからです。ただし自分が判っているのか判っていないのかを考えないのは良くありません。新鮮な気持ちで講義に取り組み、自分が判っているかどうか検討する姿勢をたもちながら、判らないときには遠慮なく質問してほしいと思います。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講にあたって受講者諸君との合意作り。	シラバスを読んでくるように。
	2	倫理という語の意味について考える。	講義後の復習をするように。
	3	倫理という語の成り立ちについても考える。	事典類にあたってみるように。
	4	人文科学を学ぶことの意義について考える。	学生同士での討議を勧めたい。
	5	ソクラテスとプラトンの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	6	アリストテレスの倫理学を紹介する。	人物について自分でも調べる。
	7	カントの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	8	功利主義の思想について考える。	身近な事例で考えてみる。
	9	カント説と功利主義の対立点を考える。	講義後の復習をするように。
	10	正義とは何かを考える。	身近な事例で考えてみる。
	11	自由について考えてみる。	身近な事例で考えてみる。
	12	共同体の意義について考える。	自分の立場にあてはめてみる。
	13	徳について考える。	身近な事例で考えてみる。
	14	あらためて正義について考える。	講義後の復習をするように。
15	現代社会の倫理問題を考える。	講義後の復習をするように。	
16	期末考査。	自分の理解を確認する	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。直接教室で使用する以上の参考文献は必要に応じて教室で指示しますが、まずは図書館で各種事典類を引く習慣を身につけるように。なお、毎回感想を書いてもらう（いわゆるリアクションペーパー）ことを考えていますが（これについての詳細は講義第1回目に受講生諸君と話し合って決めることにします）、ここに受講者諸君の資料の理解も反映されることとなります。</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>教養科目ですので初学者を対象としています。新鮮な気持ちで取り組んでほしいと思います。こちらから諸君にも質問します。活発な議論となることを望みます。出席も含めて評価については厳正であるように努めますが、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも、講義には積極的に参加するように努めてほしいと考えています。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとから確認します。</p>

学びの実践	評価
	<p>最終回に試験をして、その内容によって評価します。平常点を加味するかは受講者の人数にもよりますが（大人数だと全員の様子を把握できないため）、積極的に参加してほしいと思います。基本的には試験のみの評価ですが（ですから数値化するとしたら試験100%です）、初回講義時に評価基準について諸君に意見があれば多少聞くことはできるかもしれません。何か考えがあれば遠慮なく言ってください。なお、受講者が出席することは最低限の条件ですので出席自体を特に評価することはありません。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>大学で学ぶ学問は直接すぐに役立つものではありません。しかしそこには先人から受け継がれたたくさんの宝が埋もれ隠されています。学問に触れて貴重なものを得られるか退屈なだけでしかないかは受講者諸君次第です。本講座もこのあと諸君が学問の楽しさを得るための一助となりたくと心から願っています。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	倫理学Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 信哉	1年	講義時間内が望ましいのですが、講義終了時にも教室にてお聞きします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講座は、大学で学び始めた人たちに（とはいえずでに半年は学んでいるのですが）、特に現代の応用倫理学の一部を具体的に伝えることを目的としています。多くの人々がともに生きる現実社会では、何が正しいかの合意を慣習に任せずあらたに作らなくてはなりません。その努力の一端を紹介します。これを学ぶことが受講者諸君が本格的に考えるきっかけになるよう望んでいます。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の倫理的問題にどのようなものがあるかを知り、自分でも考えられるようになる。 ・現代の具体的な問題についてのさまざまな倫理的立場の違いを説明できるようになる。 ・倫理的なことがらについて、自分自身のしっかりした考えを持てるようにする。 ・広く好奇心を持って、いままで知らなかったことに挑戦する心構えを身につける。 	<p>予備知識は特に必要ありませんが、熱心に学ぶ意欲を期待していません。これから学ぶ人にとって知らないことは何も悪いことではありません。これから知れば良いからです。ただし自分が判っているのか判っていないのかを考えないのは良くありません。新鮮な気持ちで講義に取り組み、自分が判っているかどうか検討する姿勢をたもちながら、判らないときには遠慮なく質問してほしいと思います。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講にあたって受講者諸君との合意作り。	シラバスを読んでくるように。
2	現代の倫理的問題について考える。	講義後の復習をするように。	
3	自由と功利性について考える。	講義後の復習をするように。	
4	共同性と社会習慣について考える。	講義後の復習をするように。	
5	医療と福祉Ⅰ 自己決定について。	自分の考えを作ってみる。	
6	医療と福祉Ⅱ インフォームド・コンセント。	自分の考えを作ってみる。	
7	医療と福祉Ⅲ パターナリズム。	自分の考えを作ってみる。	
8	環境と人間Ⅰ 世代間の問題。	自分の考えを作ってみる。	
9	環境と人間Ⅱ 自然と人間。	自分の考えを作ってみる。	
10	環境と人間Ⅲ 物言わぬものら。	自分の考えを作ってみる。	
11	教育と社会Ⅰ 教育は何のためにあるのか。	自分の考えを作ってみる。	
12	教育と社会Ⅱ 誰が何を教育すべきか。	自分の考えを作ってみる。	
13	国家と社会Ⅰ 刑罰の意味。	自分の考えを作ってみる。	
14	国家と社会Ⅱ 戦争と平和。	自分の考えを作ってみる。	
15	国家と社会Ⅲ 理想と現実。	自分の考えを作ってみる。	
16	期末考査。	自分の理解を確認する。	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。直接教室で使用する以上の参考文献は必要に応じて教室で指示しますが、まずは図書館で各種事典類を引く習慣を身につけるように。なお、毎回感想を書いてもらう（いわゆるリアクションペーパー）ことを考えていますが（これについての詳細は講義第1回目に受講生諸君と話し合っ決めて決めることにします）、ここに受講者諸君の資料の理解も反映されることとなります。</p>		
	学びの手立て		
	<p>教養科目ですので初学者を対象としています。新鮮な気持ちで取り組んでほしいと思います。こちらから諸君にも質問します。活発な議論となることを望みます。出席も含めて評価については厳正であるように努めますが、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも、講義には積極的に参加するように努めてほしいと考えています。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとから確認します。</p>		
	評価		
	<p>最終回に試験をして、その内容によって評価します。平常点を加味するかは受講者の人数にもよりますが（大人数だと全員の様子を把握できないため）、積極的に参加してほしいと思います。基本的には試験のみの評価ですが（ですから数値化するとしたなら試験100%です）、初回講義時に評価基準について諸君に意見があれば多少聞くことはできるかもしれません。何か考えがあれば遠慮なく言ってください。なお、受講者が出席することは最低限の条件ですので出席自体を特に評価することはありません。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学で学ぶ学問は直接すぐに役立つものではありません。しかしそこには先人から受け継がれたたくさんの宝が埋もれ隠されています。学問に触れて貴重なものを得られるか退屈なだけでしかないかは受講者諸君次第です。本講座もこのあと諸君が学問の楽しさを得るための一助となりたくと心から願っています。</p>
-------	---